

幼の教育

號二十第 號月二十 卷八十二第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼市日

廣島高等師範學校教授

文學博士 久保良英先生新著

四六判全一冊洋銀 定價金貳圓 送料金十八錢

新刊

愛兒良毅の教養

本書の全文は悉く眞摯なる學者の兒童教養實驗記録で有

久保博士の令息良毅君は僅か九歳の年齒を享けて其餘りに短き生涯を終られた。……博士は本書自序の一節に「良毅は私の學位論文の中の言語の發達の資料を供給した。……博士は今其悼み、其悲み、其涙を新にして以て本書を著す。且又「彼の生立の全部を心理學的に記述して多少なりとも彼の此世に於る存在の意義を更に深め度い」と敬虔なる學者的願望を述べられて居る。言ふ迄もなく博士は實驗心理學殊に兒童心理の一に及ばず、尙且貴重なる育兒の記録として總ての教育家及師父に裨益する所多しと信ず、御必讀を乞ふ。

文學博士

久保良英著

實驗心理學精義

好評赫々

三版 三版 三版
簡易なる行動篇 簡單なる行動篇 複雜なる行動篇

菊判全一冊紙數八百頁挿圖貳百
定價金六圓 送料金貳圓貳角
菊判全一冊紙數八百頁挿圖貳百
定價金六圓 送料金貳圓貳角

久保博士の實驗心理學精義は蓋し學界の至寶である。日本唯一の施設兒童研究所を創設し鋭意研究して、實驗心理學の檢討に餘念なき著者は前篇簡單なる行動篇、後篇複雜なる行動篇を著し、その研究方法は質的及量的兩者交互に説叙し未決の問題は之れを未決の問題として臨し、且つその結果相背馳せるものに對しては決して獨斷的私見を取らず、始終一貫正なる學者的立場より世界の心理學者が開拓せし所、又はせんとする所を周到に詳述せるものなるを以、書中最新學說の充滿せる事を言を俟たず、且つ本書述の最も特異なる所は其の研究發表が、唯単に學問的研究者の標的たるもののみならず、實際の臨床方面に多大の意を注ぎたる點で、學校教育家、軍隊、特異な場合等者等すべての集團的當事者に取つても必ず學的の指針として貴重なるものである。如上關係者の外文檢受驗者の必讀すべき資料をより必讀を乞ふ。

發行所 東京市牛橋區 中野區 文庫館書店 電話 三三八二 番 八三三 番 四二五 番 七二五 番

東女子高等師範學校教授

倉橋惣三氏著

幼稚園雜草

◇四六判特製美本函入
 ◇定價金貳圓五拾錢
 ◇送料金拾八錢
 ◇紙數五百二十餘頁

内田老鶴圃

東京日本橋區大傳馬町二丁目
 振替東京一八一六番
 電話浪花一八四六番

最新刊

教育の理論を説いた書は多い、方法を教へた書は更に多い。しかし教育の心を語つた書は少ない。とりわけ眞心の幼児の生活に觸れた書は更に少ない。現代の日本が生んだ唯一の幼児教育の權威たる著者は、永くお茶の水の幼稚園の主事として令名噴々たる本書の著者が多年幼児の間に在つて體得した独自の感想と考察とを述べて、幼児の生活を中心とした人間教育の眞意を味到せしめんが爲めに、教育者と家庭の母とに贈つたものである。或は詩趣に充ちた感想文があり、教育の理想國を描いた創作があり、或は著者の溫容を彷彿せしむる講話があり紀行觀察録がある。豊かな興味と深き感銘と清き教訓とは、そのまゝ著者の心より讀者の胸へ流れ渡つて盡きないものがあらう。

◇幼稚園保育要目
 倉橋惣三先生序
 日本幼稚園協會編
 定價參圓八拾錢
 送料拾八錢

◇幼兒に聽かせのお話
 倉橋惣三先生序
 定價參圓八拾錢
 送料拾八錢

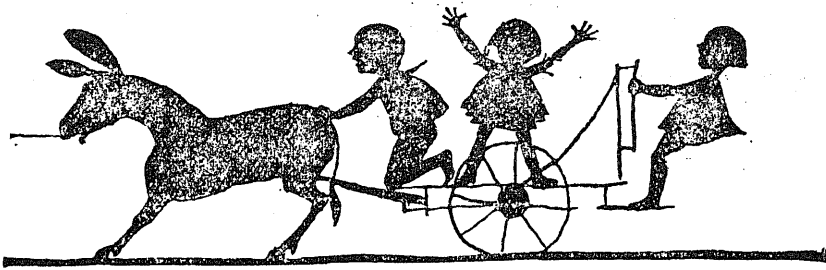
◇四六判特製美本函入
 定價金貳圓五拾錢
 送料金拾八錢
 紙數五百二十餘頁

◇幼稚園保育要目
 倉橋惣三先生序
 定價參圓八拾錢
 送料拾八錢

◇四六判特製美本函入
 定價金貳圓五拾錢
 送料金拾八錢
 紙數五百二十餘頁

◇四六判特製美本函入
 定價金貳圓五拾錢
 送料金拾八錢
 紙數五百二十餘頁

◇四六判特製美本函入
 定價金貳圓五拾錢
 送料金拾八錢
 紙數五百二十餘頁



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會 長 主 幹

東京女子高等師範學校長
東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事

吉岡 堀七藏
鄉甫 藏

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ釀出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナノコトアルベシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
- 一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査
- 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ開催

- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ケ
- 會長 一名 會務ヲ總理ス
- 主 幹 一名 會長ヲ輔佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹 事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ナリシテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シテニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席員會ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレハ變更スルコトヲ得ズ



號二十第 育 教 の 兒 幼 號八十二第

—(次 目)—

口 繪 自然物利用、教育會館	
私の視察したる米國の幼稚教育(四)	堀 七 藏……………二
觀察に關する研究(一)	臺北幼稚園 一八
アメリカの幼兒教育を見て(二)	宮 田 覺 造……………三〇
劇演出以前に	長 尾 豐……………三五
おはなしの仕方	金子彦二郎……………三九
一月の幼兒生活	卜 部 た み……………四四
童 話 ちびすけ・たらり柿	水 谷 年 惠……………四七
森の中の古靴、駒鳥の胸の赤くなつた話	A……………四七 B……………四七 C……………四七
遊戯 進軍	土 川 五 郎……………五六
幼稚園懷舊談話會の日に	新 庄 よ し 子……………五九
自然物の玩具に就て	膳 真 規 子……………六一
雜 錄……………	六六

幼児の手技研究會プログラム

一、本會は幼稚園及保育所及託児所に於ける手技保育の完成を目標として猛研究をするのでございませう。

一、本會は毎月一回研究會を開催し新資料の研究製作をして居ります。

一、幼児の教育にたゞさわる先生殊に若い先生方は振つて毎月會に御出席下され手技手藝について充分の趣味と器用とを養はれんことは直に園兒の幸福は勿論のこと其の先生自身の幸福であります。非常に必要なことと思ひます。

一、遠方の方或は出席しがたい方の爲に通信研究部の設がありまして毎月の資料を製作して送らして居ります、まだ御入會のない方は至急御申込を願ひます。

一、會費 材料代共毎月六十錢（出席會員）通信部は別に送料を要す。

市内六錢 内地十二錢 鮮滿四十五錢

臺灣三十錢

通信部會員御希望は毎月會費と送料を合算したる額を三ヶ月六ヶ月一ヶ年等にまとめて御送金のこと。但し送金はあとにてよろし。お申込を早く。

◎十二月會プログラム

一、松に日之出（貼繪）二、雪の輪と雪連磨つなぎ方 一、フラスコ人形（お茶水幼稚園及川先生御考案幼児の教育十一月號掲載）
一、お正月の柳につける資料三種 一、拳玉（ひぐらし幼稚園成田先生から資料を頂きました）

◎一月會プログラム

一、手提袋（美麗式）（姫百合幼稚園後藤先生から資料を頂きました）
一、費袋 一、美麗式切紙五種 一、紙風（折紙でこしらへる）（麴町區富士見幼稚園小杉先生から資料を頂きました）
一、卒業記念帖に貼る資料二三種豫定
梅に鶯（つなぎ方） 一、卒業記念帖に貼る資料二三種豫定

御大典紀念 折紙帖 分頒

折紙は特に日本の子供に恵まれた手技であります。茲に大典奉祝の赤誠をこめて全部百數十種をまとめました。幼稚園及小學校及家庭の寶典であります。信じてます。立派な帖でございます。一々解説折方を貼り込んでありますから始めての人でも順に折つて見れば容易く解ります。一寸忘れたといふ場合には見ればすぐ解ります。頗る重寶と思ひます。

價 額 特 上 製 全一冊 六圓五十錢

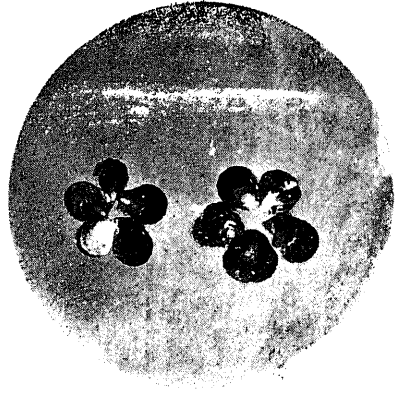
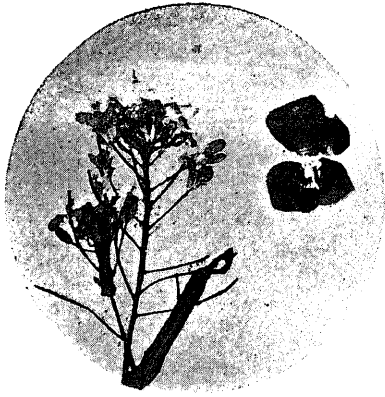
お申込順に出來た側から發送致します。一々町嚙に手先で折るのでございますから大量至急製作といふ譯にはまいりません。

東京市牛込區納戸町六番地
東洋幼稚園牛込分園内

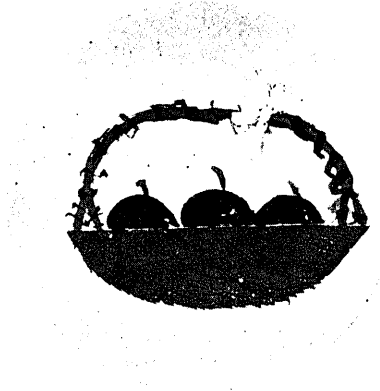
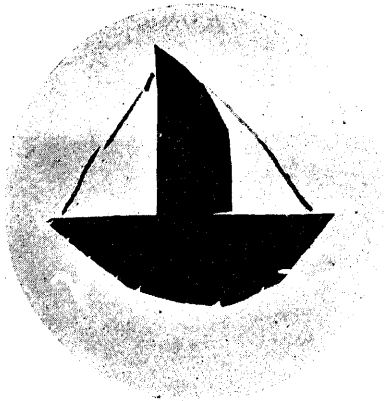
幼兒の手技研究會

昭和三年十一月

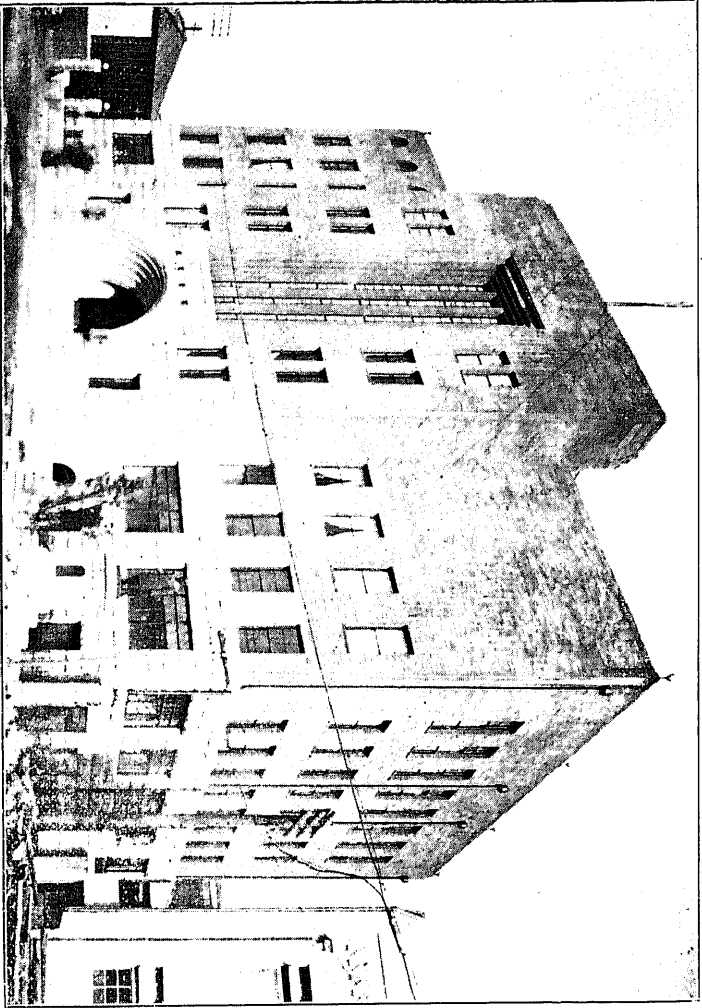
久 門 嘉 祐
振替東京六六五八八〇番



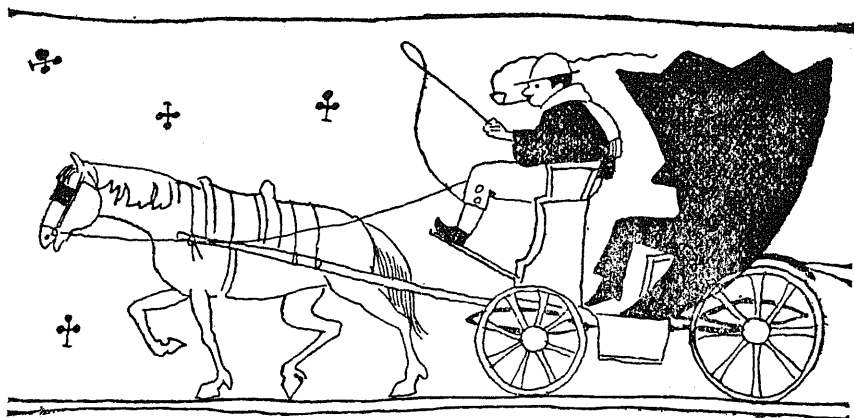
付 貼 花 押



付 貼 葉 の 櫻



教 育 會 館



號二十第 育教の兒幼 卷八十二第

月二十年三和昭

- 一、教育で家庭教育位重要なものはありませぬ。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。
- 一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園保育であります。幼稚園保育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。
- 一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園保育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。
- 一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園保育の進歩發展と期する大抱負をもつて産れたもので有ります。

私の視察したる米國の幼稚園教育(四)

二

堀 七 藏

一

前號に於て説明しかけたニュー・ヨークの教育實驗所に併置せられてゐる保育學校につき更に説明いたします。この保育學校は既に説明した如く幼兒が僅かに十人で保母は助手と共に三人であります。その代り幼兒の生活にわたつての用事をなすので雑用をなす女中さへも使用せず幼兒の食事から掃除や洗濯までもなす位であります。そして幼兒の一舉一動毎日の變化を漏れなく記録するのであります。私が視た幼稚園保育學校でこの保育學校位幼兒の身體的發達の視察調査をなす所はない位であります。それは獨逸などの孤兒院で生後一年間位の嬰兒の研究をしてゐる所が多くありましたが生後十八ヶ月位から滿三歳までの健康兒を科學的に記録調査してゐる所でこの保育學校位念入りの所は少ないと思ひます。滿三歳以上になれば次に説明する都市田園學校(The City and Country School)に入學するのであります。すが、兎に角獨り歩きが漸く出来るに至つた幼兒を研究してゐるのであります。それで次に説明する遊び道具はこの保育學校に於て滿三歳までの幼兒に是非必要なりと精選したもので、實際この保育學校で使

用してゐるものであります。

(1) 戸外の遊具

すべり臺

二つのひくいぶらんこ。

シーソーの板、長さ十二呎幅一呎のもの

二個の鋸架（これはシーソーの板を架するためのものであります）

二個の大きな荷造り箱（これは二十三吋半、四十二吋半、二十九吋半のものと四十八吋、三十八吋

三十吋のものとしてあります）

三ダースの大きな積木。（四時に十時に十時の中空なものです）

板（これは古い棚板で厚さが八分の七吋あり或るものは長く或るものは短いものであります）

梯、階段

砂箱

桶

スプーン

鰻

シヨールベル

底に孔のあるシヨールベル

小さな皿とコップ

天窓の尖頭（高さが二十七吋）、と天窓の腰掛（高さ十五吋）

三箇の移動し得る踏段、高さ十八吋二箇の小さなひくい乳母車

大きな特別な車

小さな運び車

箒

いろいろの大きさのゴム球

バスケットボール

鋸

釘

釘打に使ふ重い木片

作業腰掛

(2) 室内道具

遊戯室に小さな卓子、腰掛及びベンチ。

大人用の腰掛と卓子。

大きな火熨斗テーブルと長椅子

室内滑り臺

體操用のマット

積木箱

積木、長さ三呎までの塗らない積木（半分のもの二倍の長さのもの）二種の三角形

モンテツツリイのピンクタワー、柱

モーターツツリイ褐色の階段、ミルトンブラットレイの立方體、紫、青、緑、黄、赤のもの。

入子の箱、最も大きなものが十二時に十二吋 十吋。

モンテツツリイの圓柱、三種。

木の人形十一吋半

大きな人形の寢臺、敷布、枕、被布

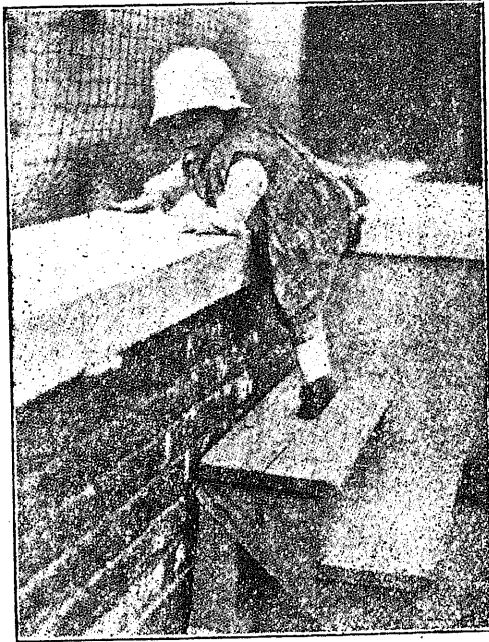
火熨斗

蓋付箱。八時に十四吋。

荷車を被ふ位な箱

車輪と軸

いろいろの大きさのゴムボール



(1)

塑像

畫用紙とクレヨン(いろいろの形のもの)

瑞西形の鐘

鐘

拍子木

砂紙

ピアノ

木の積木

以上の如き遊具が備付けられてゐます。そして

幼児の感覺器官の練習や筋肉の發達に十分なる注意が拂はれてゐるのであります。寫眞(1)は踏段から幼児が無理に高い段に登らんとする冒険で全精神を打込んでゐるのであります。高い所を上らんとして便々たる腹を壓すことだけでも體育的價値がありますが、幼児の時代でなくば味ふことの出来ない冒険で

ありませう。(2)は屋上の遊園で梯子を漸く登つて金網をすかして地上を通る人々を眺め得る壯觀を味ふ所であります。勿論保母は危険のないやうに補助はいたしますが「危ない〜！」で、何でも禁止することを決してしないのであります



(2)

が遊んで轉べば必ず膝をすりむくことがあります。コンクリートか砂でよい所にわざ〜玉砂利を敷詰めてあることは何のためでせうか。歩み難いところをわざ〜こしらへた精神を考へねばなりません。

出来るだけ多くの經驗をさせ、その間に身體精神の鍛鍊をなすのであります。前號口繪は屋上運動場に備付けた滑り臺ですが特に注意すべきことはわざ〜玉砂利の所に滑り臺を備付けた保母の教育的意義を吟味せねばなりません。わざ〜ころ〜した玉砂利を屋上まで持運んで敷詰めてあるのは何故でせうか。こんなところで幼児



(3)



4

八

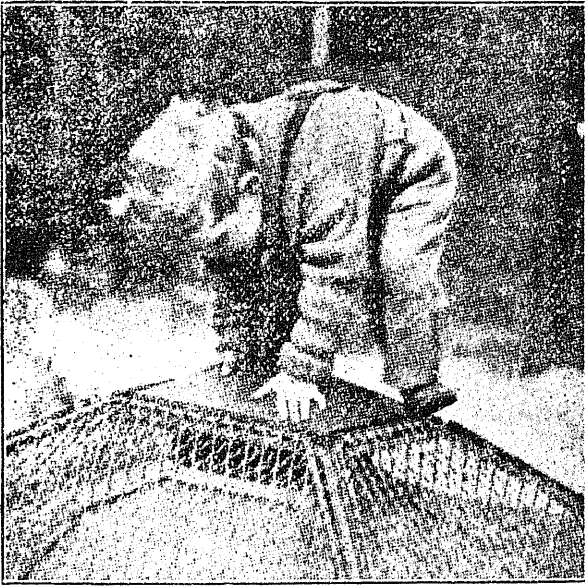
また玉砂利の上にはつて遊び、玉砂利を敷へたりつんだり、重さをくらべたり大さを比べたり色をくらべたり、いろいろの感覺器官の練習が玉砂利で出来、いろいろの遊びがこの玉砂利で行はれることを特に考へての施設であります。なげると危いからこんなものを備付けぬといふ主義と、備へて置いても石



(5)

は投げない、投げるにはボールがある。石はなげないもの」と訓練する主義と大に異なる點を十分考へねばなりません。(3)も(4)も面白い遊びで、幼児は遊びで夢中であります。(3)は四角な大積木が利用せられ、大きな箱の中へどうして入つたものか、一方では玉砂利で遊んでゐませう。砂場に使はれてゐるバケツも掃除のブラッシュもまたシヨベルも幼児の遊び道具となつてゐます。(5)の遊びに至つては我が國の保姆諸君は必ずや「あんな危いことをさせる馬鹿がありますか」とかんで吐出す位に言はれませう。靴をはいた幼児の冒險。これこそ幼児無上の快感を覺ゆる所でせう。彼等は本能的に冒險を好む動物であり、洋の東西を問はず、どんなに叱られても隠れ行ふ冒險で

ありませう。隠れて行ふため危険もある。どう
せ危険を冒かすものならば監督のもとに冒険せ
しめることの教育的なることは勿論でありませ
う。



(6)



(7)

(6)は天窓の頂上に登つてお山の大将をきめこんで得意満面。天下を睥睨する茶目さん。勿論すべることもありませう。踏みはずすこともありませう。いろ／＼の艱難を犯して頂上に立上がることの出来た得意誠に想ふべきものでせう。チャブ臺にのぼつて叱られ、こたつのやぐらに匍上がつてにく／＼してゐる我が國幼児を見ても幼児時代に是非かゝる一生懸命の動作を行はしめる機會と施設が必要でありませう。(7)は重い金鎚で釘を打込でゐる所であります。注意を釘の頭に集中して打込む積りの金鎚はあやまつて指を打つことも幾度かありませう。これも二三歳の幼児が必ず行ふ動作。大人が置忘れた金鎚は必ず幼児の遊び道具となり、指を打つて泣かねば止まぬ興味ある作業であります。たとへ釘が曲つてもとれなくなつたときの得意さ。努力の結果が眼前に現はれる動作、幼児には誠に面白い遊びであります。等の遊びは何時試み、何時成功するか等保母は觀察を怠らず必ず記録して研究調査することは勿論であります。身體の測定記録は勿論のことであるが、次の事項が各幼児につき毎日記録せられます。實際の一例ですが項目を注意する必要があるありませう。

M. M. (21ヶ月)

10月 1921年 出席 13日 欠席 3日

睡眠 平均めざめてゐる時間

12時間

5た／＼ねの平均時間

1.8時間

小 便 毎日の平均回数 4

事 故 2

うたゝねの間 ぬれてゐたこと 12 回乾いてゐたこと一回

便 通 學校で六回 普通便

食 慾 食慾なし 食ふことを好まず、七ヶ日糞食に泣く。自分で食はぬ。

社 會 性 大人にひどくあまへる。殊に初めの四五日他の幼児とよく遊ばず

泣くこと 12 日も泣く。

(原 因) タクシムで家庭に歸りたいとて。

寢臺に入りたいたとて、糞食がたべたいたとて

身體狀況 入學のとき検査す。夏中都會生活をなす百日咳にかゝる。健康すべし。

これは毎日の記録を一ヶ月にまとめたものであります。

この保育學校は幼児の自由活動に任せてあるので音楽の時間の外は全くこれといふ定めはないのであります。しかし身體的の世話が大體定まつて行はれるから日課といへばそれが主要なものでありませう。

幼児が保育學校に來ると天氣のよいときは一旦戶外遊戯場に行きます。そして午前十時三十分の朝の

ランチまで外で遊びます。十時三十分のランチがすむと或る幼児は午前の睡眠をするためにベッドに入ります。しかも多くのものは戶外に出てデインナーの時が来るまで遊びます。食後午睡をするものはベッドに入り保姆がランチをとります。午前に睡眠した幼児はデインナーまでにめざめるが、さめると便所へ行くため室内遊びをしてゐますこの室内遊びの時間はいろ／＼です。

睡眠の後凡ての幼児は起きたならば着換へて午後三時から三時半までに十五分間位音楽の時間があります。この時間まで凡ての幼児は自由に遊んでゐますが音楽の時間になると屋上から室内に入ります。

若し天氣が悪くて屋上に出ることの出来ない日には室内作業に適するクレオンとか紙が提供されます。時々いろ／＼の遊具が要求せられるがそれは計劃的に提供せられるので餘分のもものは幼児の見えなるところにしまつてあるといふ次第です。また鐘とか糸の樂器とか木琴の如きものは一定の時間に提供せられて感覺の練磨をすることになつてゐます。

戶外の遊具も屢々制限して使用させます。砂箱は午前のランチの後に使用させるといつた如きであります。これは監督の關係や服裝の關係を考察しての話であります。しかし幼児の自由な活動に便利な環境を與へることを使命とし、幼兒活動性は運動進行を好み全精力を注ぐことを望み感覺的經驗の機會を求めらるのでありますから前に上げた運動遊戲の用具を精選してゐるのであります。

都市田園學校 (The City and Country School) がニューヨーク市の西十二番町に 있습니다。教育實驗所で、既に述べた保育學校と隣つて 있습니다。元來が普通の家屋を學校に使用して いるので、十二番町から十三番町に連絡し入口が二つあるのであります。この學校は保育學校を終つた幼児から入學するので、三歳の幼児が入學して十四五歳までにも及んで います。七歳未滿の學級は一學級十二名以下であり、七歳以上の學級でも一學級十五名以下であります。各學級擔任教師の外に遊戯、家事及裁縫・音樂・粘土細工・理科・語學・木金工等の専科教員が居ります。また校醫・學校看護婦・兒童心理研究者が囑託せられて います。教室は各學級教室の外に理科室・手工室・唱歌室・模型室・體操室・食堂・割烹室・印刷室・圖書室等の特別教室があり、屋外運動場が建物の間に三百坪も あります。參觀したところ甚だ狭く雜然たるものであります。それは普通の民家の室が教室になつて いるのであり、生徒は自由活動が主となつて いるから兒童がいろ／＼なことをやつて いるからであります。これはこの學校の都市たる所であり ますが、ニューヨーク市外に五十エーカーの耕地と百エーカーの森林と牧場とがあり、そこにも校舎があり水泳場や運動場も設けてあつて、上級兒童は八ヶ月市内の校舎で生活し、二ヶ月はこの田園で生活する仕組になつて いるので都市田園學校と稱する譯であります。これはベルリンなどの學校にも見るところであります。すが、この都市田園學校はニューヨーク市に いる都會兒童のために特に研究的に行ふ學校であります。私がこの學校を參觀したのは一月の下旬でありましたから勿論田園學校が開かれて いないのであります。

す。都市學校だけでこの學校の生徒が全部十二番町から十三番町の校舎で學習してゐたのであります。保育學校で山榭氏の歐米革新教育の實際を私に示した後であります。私は山榭氏の同著は日本にゐたとき見てゐたのでありますが、この保育學校ではカテゴリーの寫眞が入つてゐるといつて喜んで私に見せた譯であります。そして私は *A Nursery School Experiment (1924年版)* の外に *A Catalogue of Play Equipment 及び Play things* などを *Bureau of Educational Experiments* へ購入して、更にこの都市學校を參觀したのであります。この都市學校は三歳兒童から入學してゐますから幼稚園小學校が一所になつたものであります。私はあちこち勝手に各室をぐるぐるのぞいて參觀したのでありますから詳細なことを知りたい方は山榭氏の歐米革新教育の實際六七頁からの都市田園學校をお讀みになるとよいのであります。三歳・四歳・五歳六歳等の普通教室では凡て幼兒は煉瓦大の積木で床上にすはつて一生懸命にいろ／＼のものを表現してゐます。多くは幼兒の共同作業であります。幼兒の自由表現であつて保姆は熱心に幼兒の表現を觀察してゐます。一切幼兒のなすが儘で教師は全く干渉しないといふ有様であります。三歳四歳の幼兒が床上にすはり込んで熱心にいろ／＼のものをこしらへるには驚く位であります。出来るものは日本の幼兒のものより決してすぐれたものではありませんが、思切つて大仕掛であります。教室といつても別に腰掛もなく卓子もなく、床上に大小の積木があるだけであります。各年齢に應じて如何なる材料を兒童に與へて如何なる生活をさせるかを研究するのでありますから教師は決して干渉す

ることはいたしません。それでこの學校の課程は年少者には遊戯であるが年齢が長ずると順次に實際的に變つて行くといふのであります。日常目撃する荷車でも電車でも建物でも橋でも、煉瓦大の積木で表現せられるのであります。それから屋上に出ると石油箱やビール箱の如きもので一生懸命に釘付をして共同作業をやつてゐます。これは大きな作業であり確定的な課程に入つたものであります。七歳八歳等と年齢が増した兒童は印刷室に入り理科室に行き、いろ／＼の實驗をしたり製作したりするので全く大人の實際生活と同じやうな兒童の實際生活をなすのであります。特に體操室を參觀すると僅かな生徒でありますが主として律動遊戯をしてゐます左程上手ではありませんし簡單なものであります。我が國の幼稚園で行ふやうな大人の技巧に滿ちた遊戯ではないのであります。至極單純なものであります。我が國的なものでありませう。理科室を參觀したがこれは獨逸あたりの理科教室とは全く別な氣分のするもので兒童が必要に應じいろ／＼の實驗を工夫して行ふものでありませう。大人が考案した實驗用具が現代の自然科学を教授するための實驗器具といふが如きものは一品もないのであります。生徒が考案したところを主として實演するものであります。印刷室では兒童が兒童新聞を印刷中であつた。これは兒童の作つた記事を掲載するものであることは勿論であります。讀書した結果綴つた文章が活字で印刷せられるのでありますから兒童には至極興味の多いものでありませう。

男女兒童が割烹練習をなすことも面白いことの一であります。コロンビア大學の附屬リンカーン學校

でも男兒女兒と共に割烹の實習をしてゐたのであります。必ずしも女が威張るアメリカであるから男女轉倒するのであらうなどと誤解してはなりません。我が國で女兒はまゝごと遊びをするが男兒はまゝごと遊びは好まないやうではあります。アメリカでは左様ではありませぬ。兎に角この學校はアメリカでも思切つた實驗學校であります。リンカーン學校が課程の研究をなすことを主要なる目的として出來た學校であるのに對しこの學校は幼兒から兒童に適當なる課程を根本的に研究せんとするものであります。リンカーン學校は小學校からハイスクールの課程の研究を目的としてゐるがこの都市田園學校は三歳からの幼兒に適當する課程を研究するので誠に面白い學校であります。我が國幼稚園では小學校と異り一定の課程がないのでいろ／＼の研究をなすに至極自由で便宜であります。所が幼稚園では何をなすべきか定つてゐないで困ります。早く課程をつくつて欲しいといふが如き聲を屢々耳にするのであります。これは折角研究の自由を與へられてゐながら之を利用せぬもので誠に遺憾なことでありませぬ。我が國の幼兒の觀念の調査も必要であれば幼兒の好む作業幼兒に適當する唱歌遊戲また幼兒の好む話幼兒の言語の發達等幼稚園に於て調査研究すべき事項が甚だ多いのであります。それを全く閑却して床上で作製した保育要目や外國の材料をその儘幼兒に強要することは眞に保育するものでありません。この點に於てこの都市田園學校は徹底的に研究することを目的とするもので誠によい手本であるといはねばなりません。

觀察に關する研究 (一)

愛國婦人會臺灣支部私立臺北幼稚園

(觀察は地方色に富むものであります。遠き臺灣に於けるこの研究は内地のそれに比して、又、一入の異色あること、思ひ参考のため茲に掲載致します。——編者)

一、貴女の幼稚園では何れだけの實物が提供出来るかの調査

(私の幼稚園として園児に提供し得る實物の調査)

一、娛樂的年中行事による觀察に關する實物

(1) お正月

門松、へ繩、國旗、鏡餅、御花、

(2) 桃の節句

内裏様、官女、五人囃し、其の他雛人形、金屏風一雙、櫻橘、ぼんぼり

諸道具、緋の幕、桃の花、菱餅、櫻餅、雛菓子

おもちゃ祭り 皆様の持寄り玩具種々

(3) 子供會

バック、ステージ、敷物、幕

御面（桃太郎、金太郎、犬、猿、雉、熊、狸、兎、鹿、雀、鬼）

衣服（舌切雀のお婆さん、お爺さん、雀、金太郎むねあて、頭巾手拭）

道具（鯉、軍配、鉞、桃太郎の旗、龜の甲、花の冠、鐵砲、小さい日の丸の旗、猫と犬のくびかけ

萬國旗、輕木モール、くすだま、紙風船、紙製玩具）

(4) 端午の節句

鯉のぼり、武者人形、清正、金時、辨慶、神功皇后、桃太郎等、のぼり、掛圖、白幕、菖蒲、よも

ぎ、柏餅、粽

(5) 七夕祭

笹の枝、（各自に一本づゝ三四尺位のもの）、色紙、短冊

(6) 臺灣神社祭

軒提灯

(7) 運動會

綱、大毬、(赤白) 小球、旗色々、襷

(8) クリスマス

テラリイ、金銀モートル、デコレイション、キュービイさん、サンタクロイスの着物、袋、帽子、ひげ

二、園庭及花壇にての觀察に關する贅物

(1) 園庭

イ、造附道具——國旗掲揚ポール、辻臺、ブランコ

ロ、自然に在るもの——土、石、砂、煉瓦片、瓦片、木片、竹片

ハ、室外遊戯道具——鐵製シーソー(四人乗)、十人乗遊動木、三輪車

ニ、砂場——木製汽車、隧具、バケツ、杓子、シャベル、箱庭道具

ホ、飼育動物——兎、猿

ヘ、植樹——松、榕樹、ゴム、桑、カタン、樟、臺灣桐

ト、鳥、虫、獸類——蟻、毛虫、デンク虫、蝶、蜻蛉、蠅、蚊、蛾、蜂、雀、ベタコ、犬、猫、鼠

チ、近傍に見えるもの——榮町通り一部、バラック建、總督府倉庫、交換局、宿舍、舊經理部、塀
家屋、盲啞學校、理蕃課寫眞現像場、ラヂオボール、星製藥大和町通一部、新聞社、總督府塔、
電柱、電線、檳榔樹

リ、眺望——大七山、觀音山、中央山脈一部、空、雲

(2) 花壇及鉢植

イ、花の種類——金盞花、トマト、石升、パンジー、矢車草、千鳥草、蘭、かいぎんく、コスモス
朝顔、日廻草、オランダ菖蒲、雜草

ロ、成長順序——種播き、發芽、二葉、枝葉、蕾、開花、結實、種子とり

ハ、手入れ——耕し、苗床より移植、水まき、施肥、摘芯、草除き、虫除き、室内外出入

ニ、道具——じよろ、バケツ、鎌、鋏、シャベル、寄木、植木鉢、鍬、塵取、箱（苗床用）

三、室内遊戯による觀察に關する實物

(1) 備品

机、腰掛、花瓶（大花瓶、柱掛一輪さし、花籠）、鏡、時計、戸棚（書籍棚、辨當棚、保育材料戸棚）
帽子掛、傘置、下駄箱、靴ふき（棕櫚、金製）電話、手洗（金盥、タオル）、石鹼入、湯タンク、ヤ

カン、湯呑み茶碗籠、雑巾、バケツ、箒、雑巾、ハタキ、棒雑巾、園児用寝蒲團、園児用着がへ（ネ
ル、浴衣、襦袢、帯、エプロン）

(2) 保育材料

オルガン、蓄音器、黒板、白墨、鐘、曆、知能測定器、積木、三體、六色三體、排板、排箸、排環
貝ならべ、粘土、摺紙、織紙、貼紙（打抜貼紙、臺紙圓形）方形）連繫紙、畫用紙、クレオン、石盤、石筆、
自由切抜動物鳥虫類用紙、塗畫用紙、キビガラ、麥稈、リノリウム、おはじき、南京玉、豌豆、
數のカード、子供雜誌、（子供の園、子供の友、ヨキコドモ、幼年畫報、ゴドモ動物の本、數の本）、
毛糸、木綿糸、糊

(3) 道具

箒、刷毛、壺、箱、鉢、針、小刀、ピン、織針、古ペン先、割升、定規、板、ゴム布、黑板ふき、
南京玉容器（小皿）

(4) 玩具

亞米利加人形、日米子ひめ様）日本人形、（昭子あき様）西洋人形（布製）いぬはりこ、はめこみ玩具、刀（木
製）、

兵隊道具（大將帽子、勳章、聯隊旗、日の丸旗）

樂隊道具（大太鼓、小太鼓、笛、三角鐵、ラッパ、シンバル）

まま事道具

（イ） 日本料理

御膳部三組、流し、御茶器一組（菓子器）

かまど、鍋釜、まな板、おひつ、しやもじ、庖丁、御皿、手桶、ひしやく

（ロ） 西洋料理（ストーブ、ストーパン、シチュエーパン、ホーク、ナイフ、スプーン、御皿）
木製玩具、（自動車、汽車、電車、飛行機）

四、實物標本、掛圖及圖書

(1) 實物標本

とんび、山娘、兎、飛行機、軍艦、帆掛船）

(2) 掛圖及圖書額

動植物、氣候に關するもの、お伽噺、圖書類、（幼兒用保姆用）

總督府行啓紀念）フレイベル先生肖像、ミレーの晚鐘、風景畫、子供の可愛い繪、西洋からの美

くしい繪、西瓜の油繪、額椽種々

二、幼兒の日常接觸する經驗圈内の實物に就ての研究

一、家庭

- (1) 床を離れる
- (2) 着がへ(御ねまきを幼稚園服に)
- (3) 顔洗ひ——タオル、ブラッシ、齒磨粉、石鹼、洗面器、水道栓、水
- (4) 御挨拶——御父様、御母様、兄弟姉妹、雇人などに
- (5) 朝食——食卓、食器(茶碗、皿、井、大中小、箸、スプーン) 食前の禮、食物、飲物、食後の禮
- (6) 幼稚園行の仕度——ハンカチーフ、紙、バスケット、(御辨當器、湯呑、箸、フキン) 手提袋、(通信簿) 帽子、エプロン、靴、下、靴、カッパ、傘

二、途 中

- (1) 道路——土、石、砂、塵埃、溝、並木、落葉、草花、電柱、電線、街燈
- (2) 建物——土造、煉瓦造、平家、二階家、三階屋など 公共造營物
 屋根、窓、門、塀、バルコニー、室内、門燈 官廳舍會社

商店—看板、裝飾窓、店棚、各商品

住家—標札、玄關、樹木

(3) 交通機關——人力車、自動車(乗合、荷物、撒水、郵便) 自轉車、オートバイ、サイドカー、三輪車、荷車(牛馬車)

(4) 通行人——官吏、會社員、軍人、巡查、學生、(大中小) 婦人、車夫、苦力、行商人(野菜、魚、鳥獸肉、果物、やさいも、菓子(殊に本島人の) 靴直し、かすがひ、反物、桶の輪かへ、古綿打直し、ぼろ、古新聞、空瓶いろく)

三、幼稚園の生活

(1) はじまる前——先生御友達に御挨拶、御荷物置き、自由遊び

(2) 號鈴——園旗掲揚、深呼吸

(3) 整列——行進著席

(4) 會集——奏樂を聞いておだまり、御早うの歌

日めくり、今日を覚える事(日、曜) すきな歌、組長さんの交代(マーク付け) 其の日の豫定の御話、會話、新しい歌、遊戯、各組すきな遊戯

(5) 自由遊歩

イ、晴天日は室外、(園庭にて運動具及玩具、砂場、花園、植木鉢の手入

童心遊戯——おにごっこ、幼稚園ごっこ、かくれんぼ、ままごと、戦争ごっこ、石けり、國取り
玉入れ、子取、繩飛び、天神様、汽車、時々けんくわ

ロ、雨天日は室内(玩具、子供、繪本、石盤、自由畫、唱歌、知能測定器

(6) 室内遊戯

1 韻律的——(イ)どなたが私と一緒に遊ぶ、(ロ)可愛き子供、(ハ)だるまさん、(ニ)お百姓さん

(ホ)御舟遊び、(ヘ)手打スキップ

2 音聲的——(イ)御名前あて、(ロ)目くら鬼、(ハ)ブラン鬼さん、(ニ)品物かくし、(ホ)花かし、(ヘ)積木まはし

3 季節的——春(イ)蝶々、(ロ)花の床

夏(イ)びよん子さんびよん太郎さん、(ロ)金魚、(ハ)とんぼ

秋(イ)角力、(ロ)リス

冬(イ)狩人、(ロ)雪だるま

四季通じて(庭に出て遊びませう)

4 事物的——(イ)人かくし、(ロ)品物かくし、(ハ)花かくし、(ニ)時計、(ホ)ボート、(ヘ)ピアノ、(ト)汽車、(チ)私のおもちや、(リ)私は名高い音楽師、(ヌ)手に持つ何、(時に應じ何でも)
(ル)お顔遊び

5 記憶的——(イ)果物賣り

6 自由的——(イ)體操、(ロ)玩具屋さん、(ハ)見よや子供、(ニ)結んで開いて

7 御作法——(イ)御客様遊び

8 童話遊び——(イ)金太郎、(ロ)桃太郎、(ハ)舌切雀、(ニ)花咲爺

9 競技的——(イ)輪くゞり、(ロ)綱引き、(ハ)徒歩競走、(ニ)猫鼠、(ホ)ハンカチ落とし、(ヘ)ホ

ストン、(ト)椅子取り、(チ)玉送り、(リ)鈴割り

(7) 組別

1 具物——(イ)六球(第一)(ロ)三體(第二)(ハ)積木(第三、四、五、六)(ニ)排板(第七)(ホ)排

箸(第八)(ヘ)排環(第九)(ト)描き方石盤及畫方罫紙(第十)(チ)刺紙(第十一)(リ)繡紙(第十二)

(ヌ)剪纸(第十三)(ル)織紙(第十四)(ヲ)組板(第十五)(ワ)連板(第十六)(カ)組紙(第十七)

(ヨ)摺紙(第十八)(タ)豆細工(第十九)(レ)粘土(第二十)

2 手技——(イ)貼紙、(ロ)南京玉、(ハ)破り紙、(ニ)キビガラ、(ホ)彫物、リノリユーム、

(へ)切抜(自由動物)、(ト)細工物(箱物など)

3 描き方——(イ)塗り繪、(ロ)自由畫、(ハ)板畫、(ニ)石盤畫

4 話し方——(イ)聽き方、(ロ)話し方

5 唱歌

6 遊戲——(イ)律動、(ロ)表情

(8) 御辨當

1 準備——手洗、机ふき、バスケット並べ、バスケット開き

御辨當器
御湯のみ
御湯くみ
お箸、ならべ

2 頂きます——御辨當の歌、御挨拶(頂きます)食物、飲物、御話、御片付け、御挨拶(御馳走様)

3 自由——通信簿くばり、時々通知の御手紙を渡す、御話、唱歌、遊戲

(9) 室外自由遊歩、前に同じ

(10) お歸り

1 各自持物携帯——バスケット、手提袋、帽子、かつば、傘

2 號鈴——整列、園旗おろし、おかへりの歌、御挨拶

四、途 中 (前に同じ)

五、歸宅 後

- (1) 御挨拶——只今歸りました、通信簿を見て頂く
- (2) 御荷物整理——靴、靴下、傘、帽子、合羽、バスケット(御辨當具)
- (3) 御やつ——容れもの、包みもの、御菓子、果物、飲物、御禮
- (4) 御遊び——兄弟姉妹御友達と、場所(自宅、御友達の家^{室内}、庭園、公園、道具)
- (5) 入浴——脱衣、道具(朝の顔洗ひに同じ) 浴槽、湯(體を洗ふこと)
- (6) 湯上り——體ふき、點粉、髮梳り、着衣
- (7) 夕食——食器は朝の食事と同じ、夕食事の禮、御馳走
- (8) 食後の娛樂——其の日の會話、音樂(聲樂、器樂) 讀書、お伽噺
- (9) 就寢——寢衣にきがへ、御やすみの御挨拶、夜具(敷布團、敷布、枕、掛布團、毛布、掻卷)
- (10) 夢の國

(以下次號)

アメリカの幼児教育を見て (二)

三〇

東京女高師體操科教官 宮 田 覺 造

次に身體の教育に付いて良習慣をつけるといふ事に苦心されてゐる事は何處の幼稚園に於ても見逃す事の出來ぬ事實である。

幼兒は活動性に富み彼等の生活の全部は即ち遊戯である。この遊戯の生活、活動の生活に對する習慣養成であるが、園児が登園して保育室に入ると直に彼等の生活の全部が活動し得る状態におき自己の生活全部を發揮せしむることである。勿論我國の幼稚園の如く保育室と遊戯室との區別はなく遊戯室であり保育室であり食堂であり運動場であり仕事場である様に見らるゝことは設備の上に考慮を要すべき點であると思ふ、従つて園児が登

園すると各自が欲する所の種々なる活動をなす事が出来る。然も其の身體的活動は園児の心に任せ運動をするのであつて教へるのではない、鋸で木をひく者、腰掛を持ち運ぶ者、圖畫をかく者談話をする者、積木をする者、砂遊びをする者、粘土をこねる者色々の活動生活をするのである。是等は身體活動及び精神活動に對して眞に當を得たる計劃である事を考へざるを得ない。この身體活動の良習慣は無茶苦茶な活動はなく定まつた時間が來れば止めもするし、共同作業もするので一つの狭い活社會の觀がある。

次に衛生教育に對する良習慣を得さしむること

であるが運動をした直後に手を洗ふといふ事や、食事をする前に必ず手を洗はしむるといふ事や、一寸した簡単な事であるがよく習慣づけられてゐる。實に無理のない處作には可愛らしい觀がある。實に健康教育に對する良習慣をつけるといふ事を考へさせられる。殊に小さい手で石鹼を使つて手を洗ふ園児の様子を見た時には念の入つた過去の指導振の努力を忍ばざるを得ない。我國の小學校の教育を思ひ出し中等諸學校の教育の實際を想像しひるがへつて家庭の教育の不徹底を考へざるを得なかつた。健康教育。身體擁護保護の良習慣衛生に對する常識養成等くり返しくり返して我國の現状をしのび身體の健康生活への内容を豊富ならしめねばならぬことを考へさせられたのである。

最近日光浴に對する身體教育に對する効果價値が認められて以來幼兒は機會あるごとに日光浴を

なさしめる事に努力してゐらるゝ事も幼兒の保健の上に重要な事に考へられる。何れの場所でも保母の口から自信のある力強い言であるが亞米利加に於ける幼兒教育に對して努めなければならぬ事は天賦の性能を發揮するため、自由精神の教養と日光浴と水浴とを勵行することであるといふ事であるが實に日光浴に對する國民の生活を習慣に迄持ち來らしめる事は身體教育の上に大なる價値効果を持ち來らすべきことであると考へる。

次に作業服を着たり運動靴をはきかへさせる事の習慣を養成することであるが、これにも亦大なる努力を拂つてゐる事に敬服せざるを得なかつた。運動をするに最も都合のよい仕度をさせる事は運動氣分の満足。活動欲の誘導に最も大切な事で粘土をこねたり、ラックを粘土に塗つたり、圖畫をかいたり砂遊びをする時に之に相應する服裝をさせて彼等の活動を思ひ切つてなさしむる事は

獨り彼の國の幼兒の教育ばかりではなく、我國の全教育に對して模範とすべき事であると考へる、殊に作業とか運動とかには全國民の心底から植えつけねばならぬ重大なる習慣である様に思はるゝ、教育のことが單なる一つの形式や處作事に考へず習慣構成にまでつきつけることは彼の國民教育に對する第一線である、幼兒の教育にとつて考へずにはゐられなかつた。

殊に身體教育に對する微細なる點に迄良習慣を作らんとする點は感服する外はないのである。

運動教育に付いて觀察したる二三の點に就いて述べて見やう。

米國に於ける幼兒の運動教育に就いて最も私の心を動かさせられた事實の一つは危険の伴ふ運動を遠慮なく思ひ切つて行はせるといふ事と。第二は運動用具や、作業に用ふる用具が非常に大きい事である。

危険の伴ふ運動(努力を要する運動)を保姆が監視しながら行はせる事は一考を要すべきことで、教育的に考へ園兒の全生活から眺め、人間完成への第一歩として深刻に考へた時には實に缺くべからざる重要な教育的手段であると思はれる。

此の點は我國に於ける幼兒教育の最も工夫を要し、改善せねばならぬ點ではないかと思ふ。我國に於ける現在の幼兒の教育は消極的な運動が多く即ち危険のない靜かな運動のみを考へ、子供の心の身體とのみに着目し種々の點から教育的言辭を冠らしめその美名の下に行つてゐるのではなからうかと思はれる。

園兒の力一パイの仕事は危険の伴ふ運動に依つて表現されるもので棒に昇つたり高い臺から飛び降りたり、高いすべり臺に昇つたり、思ひ切つてブランコを振つたり速力の速い廻轉運動を行はせたりする事に依つて幼兒の膽力をねつたり全力を

擧げた活動が出来得るのである。従つて之に伴ふ種々なる精神が涵養されるのであることを忘れてはならぬ。將來幼稚園に於ける運動を通しての教育は此の精神を培養せねばならぬと考へるのである。眞に幼兒相應な自己の體力氣力を表はして運動なましめる事は必要な事で將來大をなましめるところの魂を打ち込む大國民の教養として重要な要素であると思ふ。幼稚園兒は仲々思ひ切つた運動を好みもし行ひもするもので舊套を脱した積極的な保姆の活動と運動を通した點の觀察がほしい。幼兒といふ名の下に大人の考へた立場から想像した不自由な捕へられた教育は大いに反省せねばならぬ事で設備の上に或は學級組織の上に改善せねばならぬことと思ふ。

次に運動道具が大きいといふ事であるが手工の道具にせよ鋸にせよ、或はつみ木にせよ、組みたてた家にせよ、非常に我國に於ける幼稚園の道具

とは趣を異にしてある様である。又圖畫をかくにしても粘土で物を作るにしても砂遊びにしてもつみ木で物を作るにしても非常に其の仕掛が大きくて掌の上にならべた、箱庭式の飾物とは全々異なつてゐる。種々なる作業を行ふにしても體育的價値身體修練の効果が内容の點に於て實に豊富である様に思はれる。

最も運動道具の中で氣に入つたものは一人が車に乗れば二人がひく三人車に乗ればひくものがあり五六人おすものがある。大勢の子供が乗つて遊べば大勢の子供が其の機械を動かすといふ様な運動道具が設備されてゐるといふ事は幼兒教育の用具として否學校本位の我學校の生徒を教育するのに實に考へられたものと思はれる。身體修練は機械に動かされて運動價値を増進するものと自己が機械を動かして價値効果をもち來らすものとある事を忘れてはならぬ。然かも多數のものが比較的

同じ運動をある目的のもとに行ふといふ共同的精神、團體的精神といふ事が教育されるわけである。

尙遊戯室乃ち保育室の美化といふ事であるが私
の見た幼稚園はハワイに於ても米本國に於ても實
に室内が園児の力と保母の力とに依つて美化され
てゐるといふ事である。保育室に入り遊戯室に入
ると同時に實に美しい明かるい活動したいと感ず
る點は美の教育から見て園児の生活に規範を與へ
る點から見ても重要な事である。我國に於ても
此の點は夫々工夫されてゐる様であるが一層注意
して美に對する感覺及び情操の陶冶といふ點から
見て重要な事である事を忘れてはならぬ。然も美
しいといふ感じと共に明る喜んで活動しやうとい
ふ氣分を自然の間に起さしむる迄に工夫してゐる
點は範としてとるべき點であると思ふ。

以上が私の短い亞米利加の幼兒教育を眺めて感
じた點である。運動の教育を通じて考へさせられ

た點である。

幼兒教育の現在を思ふたときには園児の健康生
活に對する徹底味を強くしたいと心から思ふ。



劇演出以前に

長尾豊

一

兒童の劇の指導とひと口に言つてゐる中には、普通に劇化とか、脚本のつくり方と言はれてゐる簡単な戯曲形の書き方も含まれて居れば、それを演出して見る演出考案の指導や、書いたものが演ぜられるやうに考へられた上で、さて其の人をさめて實際に動いて見るいはゆる演技（アクティヴ）の指導一切にまで及んでゐる。つまりひと口に劇の指導といふ中には簡単な戯曲創作の指導と演出考案の指導と、又其の演技指導の三つが含まれてゐる。否含まれて居なければならぬ。何となれば此の三つは別々なものではなくして、それ

く相關連してゐるからである。

脚本を書くといふやうな事が、獨立して考へられるのは大人の場合で、兒童にはたと脚本だけを引離して書かせる事は困難である。ごく短い對話體のものであれば、指導如何によつては、尋常二三年の兒童でも容易に面白いものを書き得るが、それとてもお話あそび、唱歌あそびといふやうな劇ごつこ、戯曲遊戯を通つて置いた方が更に容易である。なんらの準備なしに脚本體戯曲形のもが書き得ないのは、子供も大人も大して變りはない。其の準備なしに強ひて書けばおそらくそれは脚本體にも戯曲形にも成り得ないであらう。

紙の上の劇を板の上の劇に反譯する演出考案といふものは、ちやうど歌詞に於ける作曲編曲のやうなもので、書いたものが演ぜられるまでは、一遍それを通らなければならぬ。そしてその先きにまだ演技の指導がある。これをひと口に劇の指導と呼んでゐるが、分けて見れば先づ此の三つの方面がある事になる。指導者が指導し得る力を養ふには、三つの方面に分けて考へ、それと相關連してゐる所を見て調べれば便宜も多いが、併し實際を言ふとかう都合好く三つに區別する事も出来なければ、特に幼兒の場合にあつては、創作、演出、演技といふ其の順序さへも立てられない。それが此の三つの方面を判然見究める事も出来なければ、第一そんなものゝある事さへ心附かずに今まで只ひと口に劇の指導と言馴らされて來た所以であるらしく思はれる。

二

大人は劇を見たり、戯曲を讀むことからでも脚本體のものを書く事も出来よう。けれども兒童の場合にはそれが困難であり、幼兒の場合には絶対に不可能でさへある。兒童に見せるための劇といふものは、今日まだ何所にもないと言つて差支ない所でどうしても演ずる事によつて劇の何であるか、劇的とはどんな事かを味はせなければならぬのであるが、それも書かれた脚本を持つて來て、幼兒にセリフの誦讀を課し、指定の動作を強ひ、合はせて實演公表を迫るやうな事では、その目的は達せられない。

兒童の生活の中に、その生活である遊戯の中に劇的分子が含まれてゐる。多くの劇的要素が含まれてゐるのである。兒童は生れながらのアクターであるとか、子供は本來演劇的なものであるとか言はれるのは、皆そのためであると思ふ。すると本來劇的であり、劇的なものを内に十分もつてゐ

る兒童に向つて、外から大人が考へた劇らしいもの劇に似たやうなことを持つていつて、これに加へてはならないのだと思はれる。

一足飛びの劇演出以前、多くの戯曲遊戯、劇あそびが遊べるわけである。此の豫備行動とも基本演習とも言ふべきものを通らずに、出しぬけに劇演出を試みようとするれば、果してそこに演ぜられたものが、ほんたうに兒童の劇であるかどうかも保證されない事にならう。

劇の虚名に惑はされて、遊戯であることを嫌ひ何でもかでも劇として押通さうとした一部性急な人達は、當然の報償として劇でもなければ、又劇的遊戯でもないものを擲んで、劇をそこなひ兒童をそこなひ、不用意不せんさくな焦燥努力の結果只徒らに自らの不明をあらはしただけで終つた。

三

兒童の劇演出は、多くの批難や偏見にも撓むこ

となく、今日なほ行はれてゐる。これを一時流行の餘焰、所々にその殘端をたもつてゐるものと見ることは出来ない。今後益々さかんになるとも、おそろく衰へる時はなからうと思ふ。けれども問題はそのさかんになると、衰へるとにかくして、これを如何に取扱ふべきかにある。流行に驅られ新奇を追つて有頂天になるのが賢明でないと同様に、世の一切の風潮に耳目を塞いで、われひとり覺めたりといふ顔をしてゐるのもあんまり褒めた話ではない。世界の兒童劇運動といふものに對して、どんな態度をとるべきか、しつかり極めて置くのも、教育者としてのひとつの修養であらうと思ふ。

兒童劇の運動といふものは、言ふまでもなくひとつの教育運動である。たとへ新奇を追ひ、流行に驅られた一部の人々が、似て非なることをするのに急で、兒童を忘れるやうな事があつても、す

べてがさうであつたとは考へられない。中には自己陶醉や賣名宣傳の具に使はれたものもあらうが、その多くは無自覺無理解の結果、悲しむべき破綻を見せたのではなからうか。

劇を兒童畫や童謡と、圖畫や唱歌と對立させて考へる人はあるが、兒童の生活である歌謡や話と並べて考へる人は少ない。並べて考へる人があるとしても、これを結び附けて考へる人は更に少ない。兒童の劇の正體が容易に掴まらなかつたのも、その生活である歌や話と關連して取扱はなかつたからではあるまいか。

思へば一足飛びの劇演出以前に爲すべきことは多々あつた。それを乗越して行き過ぎた劇が、始めからの無理として破綻を生じ、批難を招き、今日あるやうな多くのふしぎな兒童劇と成つたのも、けだし行き着く所へ行き着いたかの觀がある。

レコード豫約募集

我が國幼稚園に於て最初に採用せられたる唱歌をレコードにいたしました。吹込者は我が國第一回の保姆たる氏原銀子、膳眞規子兩先生であります。日本蓄音器商會製作のレコードであります。兩面一枚金貳圓の豫定であります。購入希望の方は豫め東京女子高等師範學校附屬幼稚園内本會事務所に御申込下さい。

昭和三年十二月五日

日本幼稚園協會

おはなしの仕方

きかせるより見せるやう

——週間朝日より轉載——

東京女高師教授 金子彦 二 郎

一

幼児の世界を理解して「幼児にして聞かせるお話の仕方」これは私どもにとつて専門的な學術講演以上に、氣骨ばかり折れて、しかも成功の收めにくい難題です。世にはお伽講演家といふその道の専門家があつて、そのうまい話し振りで幾百の幼児達をしてまるで吸込まれるやうに聞き惚れさせてゐるやうですが、私は今私の貧しい體験から、家庭における差し向ひで話してやる場合とか、せいとく、四、五十人位の幼児相手の教室かなどでするお話の仕方について二、三の思ひつきを述べ

て見ます。

まづ何より根本的な條件としては、分りきつたことですが子供といふものは、決して大人をそのまゝそつくり縮少した複製品でなく子供にはそれ自身独自の世界があるといふことを理解してゐて、話手の方が出来るだけその世界に入り込み同化してかゝるといふことが大切です。

狂言「末廣がり」にも「下からは上がはからはれぬものぢや」といふ臺詞があります、上記の如き子供の世界に入り込み同化してやるといふことは、いふは易いが中々容易からぬことです。

にかくさうした本當の幼兒愛と親切氣とがあつたら、思ひきつて父母だとか、教師だとかいふ地位に着せてゐる鎧や冑ともいふべき威嚴をすつかり滅却して、態度や言葉や服装などの一部までも幼兒なみになりきつてやることです。堂々たる髭の親爺や丸鬚の母が時に子供の帽子をチョコンと頭の上に載せ、白い風呂敷なんかをエブロン風に胸部に引つけて、一寸甘へた口振りで、『ウマチやうだいな』などいつてやられたら、きつと子供達の親しい仲間——遊び相手——として歓迎されること請合です。

二

幼兒に食べ物を當てがふこつて 必要といふことが凡ての發明の母胎です、右に述べたやうなことも人の子の親となつた體驗を持たぬ方には何だ阿呆らしいと嘲笑されるかも知れないが、次のやうな事實に直面したら、その眞理性がうなづけて

頂けやうかと思ひます。それは或畫家によつて描かれた母性愛といつたやうな構圖で、美しい母が可愛らしい幼兒を前にして御飯を食べさせてゐる繪があつて、大層評判が高かつたさうです。それを一人の勞働者風情の男が見て、『こんなうそつばちを描た畫か何でえ!』と噛んで吐き出すやうにけなしつけたので、そのわけを聞いて見ると、『子供に物を食べさせる親は、きつと先づ自分自身が口を開いて見せながら養つてやつてゐるもんだ。所がこの繪のおふくろはきつと口を眞一文字に結んで、子供にだけ口をあけさせてゐらあ、そんな事あるもんぢやねえや。』と答へたとか。聞いて見れば尤もな話。實際子供に物を食べさせる時には、箸に何か挟んで、さあお上りといふ時に、殆ど無意識的な自然の勢ひとして、『アーン』と渡す方で先づ口を開いて、『ムニャ〜〜』と、自分も噛む眞似をするものです。

こんな動作や表情を第三者の位置からでも冷静に観てゐたならば、どんなにか滑稽至極な表情態度に思はれませうが、さうした外観を顧慮することなしに、常に此の場合の此のこつを以てお話をしてやりさへすれば、きつと幼児の心をぐらさないお話が出来ると思ひます。

三

具體化が第一 前に述べたことは、つまり言葉なり動作なりをば凡て具體化してかゝれといふことです。言葉にせよ、表情態度にせよ、抽象的概念的な説明をつゞけてゐては、すぐ物飽きする幼児達は、逃げてしまひます。例へば「犬」とか「猫」とか「鳥」とか「牛」とか「鼠」とかいふ概念的な名辭では殆ど何等の興味も起さないがそれを今その幼児達の知識獲得の第一の門戸である聴覺に訴へる仕方では、「ワンワン」とか、「ニャアア」とか、「カアア」とか、「モウ〜」とか、「チュウチュウ」

とかいふ風に表現してやると、忽ちきゝ耳を立て乗つて來ます。

『犬がお菓子を食べてチンチンした。』

といふ代りに

「ワンワンがね、オイチイウマウマをアムアムしてね、チン〜しましたよ。」

といふ風にいへば、すぐうなづくものです。更に「オイチイ」といふところに舌鼓を打つ動作でも入れ、「アムアム」には物をムニャ〜咀嚼する時の唇の動作を挿みそれから「チン〜」には、軽く握つた両手の手頸を並べて一寸胸前に突き出して、犬がチン〜する時の動作でも眞似てやらうものなら、もう目を圓くして共鳴して「またして〜」とアンコールを要求されるに違ひありません。

この具體的にといふことを更に換言するならば、戲曲的にといふことにもなりません。説明でなし

に實演でといふのです。例へば桃太郎の話をしてやるとして

桃太郎が向ふから出て來ました。さうするどこつちから犬が出て行きました。犬は桃太郎にお腰の物は何でもございますかと問ひました。桃太郎が、これは日本一の黍團子だと答へました。さうすると、犬が一つ下されば家來になつてどこへでもお供しませうといひました。桃太郎が黍團子の一つやつたので、犬は家來になつてついて行きました。

などいふ話しぶりは、いはゆる話の筋を運ぶ話し方で、文章として讀む時には分りがいいが、お話として聞く場合には、一つ／＼の會話に挟まれる『といひますと』『答へました』がうるさくて／＼お話の興味と進行とを滅茶々にぶちこはしてしまふものです。

四

目に見えるやうに 上記の桃太郎が犬を家來に召し抱へる一段を差し向しひで話てきかせるものとして、次のやうに話したらどうでせう。

——日本一の桃太郎さんがね、桃のついた旗を脊中に（一寸、右手を右肩の上へ差上げて旗の位置を示し）さして、鬼ヶ島征伐にと（一寸兩肩を交互にそびやかし、口をくひしはり頬をふくらましつゝ強さうな表情身振をして）出掛けて行つたんですよ。さうするとね、道ばたの藪っこ——ほらお隣の裏にある竹藪のやうなね——あゝいふところから、大きな黒いワン／＼がね、——ほらお湯屋の前にも寝てゐる——あのワン／＼がね『ワン／＼』（犬の吠聲のまねをして）『ワン／＼』といつて桃太郎の前へ出 來たのよ。さうして犬『上を見上げる表情で』桃太郎さん／＼、どこへいらつしやるの？』桃（ぐつと反身になつて犬を見下す體で）ナニ、わしか。わしは鬼ヶ島へ鬼

征伐にいくんだ』犬「(右手の尖で、犬が尾をふるやうな手つきをして、顔を上に向けつゝ)へえーそして、そのお腰にあるものは何でございますか?』

桃「一寸左腰の袋に注目しつゝこれか、これは日本一の黍團子よ。おいしい〜(一寸唾でも呑み込む表情をして)黍團子よ』犬「くん〜鼻で嗅ぐやうな表情をして)おや、なるほどおいしい〜匂ひがする。(桃太郎を見上げて)一つ頂戴!、お供しませう』桃「頼もしげに犬を見やる風情で)なにお供するツて?(腰の袋から黍團子を取り出す體よろしく、次に犬に投げ與へる手つきをして)それ、つかはずぞ、供いたせ』犬「お辭儀を二三回してから)ワンワン。(食べる動作)アムアム

五

再び目に見えるやうに 要するに、幼児達はどちらかといへばお話を聞くといふよりは見るもの

です。だからお話をしたりやりながら幼児達を注意深く觀察してゐるとよく分りますが、きつと目を鈴のやうに見張つて、中には口まで開いて聞いてゐるものすらあります、さて目に見える様に聞かせる爲には、話し手の顔と體が大いに働かねばならない。をかしい時にはをかしい顔もいるし、怒る時には怒つた顔も悲しい時には泣顔も、威張つた時には威張つた身振もいるし、手つきもいるのです。

このためには前にも述べましたが、幼児に食べ物や當がふ時に、見榮も外聞も構はず先づ自ら口を開いてかゝるやうに、父母とか教師とかいふ威嚴や、地位的意識から離れられぬ堅苦しさの一切から解放されて、無邪氣な彼等の世界にすつかり没入してかゝることです。この親切氣と幼兒愛の熱意とがありさへすれば、もう一つの厄介事たる幼兒に分り易い言葉の習得洗練といふことも、當然出來ていくことと思ふ。

一月の幼児生活

東京府女子師範附屬幼稚園

卜部たみ

一月の主材

○四方拜

○年賀

○一月の町

(一月一日祝賀式、門松、鏡開き、消防出初式、大相摸)

○一月生れ誕生會

○お正月の遊び

(新年會、かるた會、御年賀ごっこ、双六、追羽根、こままはし、凧揚げ、お手玉、其他)

○一月の草花

(冬芽、福壽草、梅、水仙、寒ぼたん、寒菊、南天、おもと、やぶこうじ等)

○雪遊び

(雪だるま、雪うさぎ、雪つり、雪合戦)

○一月の氣象及其他

(降雪、寒風、つらら、霜どけ等)

幼二、一月の至材

曜 週	一	二	三
1	<p>始業式、教生紹介式 主事の話（觀兵式・旅順開城記念、水城大佐の事其他） 幼稚園に於ての話、挨拶。 お休中の繪、手工等持ち來つたものをならべ、唱歌をうたふ</p>	<p>自由あそび （御年賀ごっこ（まじごと）砂場、上臺、ブランコ、羽根つき、かるた等、本讀み手技） 唱歌（お客様、あられ（其他）練習） 遊戲（練習） 談話（面白かつた休中の話、幼児發表） 右の話を繪にかきそれより發表するもの。 自由あそび（同前、鬼ごと多し） 言葉織ぎ（明日かるた遊び約束）</p>	<p>自由あそび（持よつたかるた、双六にて一團宛になつて樂しげに遊ぶ） （この間に國語及數の方面の指導） かげふみをしつゝ（一歩と一の數の結合） 本校庭—寄宿舎の庭—銀杏寺 傳通院—後自由畫。ことばつなぎ「ア」字の頭につくことば</p>
2	<p>自由あそび 雪景色の觀察、雪つりだるま作り等、焚火にあたる者殆どなく雪遊びにふける 日曜生活發表（雪に關する話多く又雪ふりに關する遊びの繪多い） 雪の歌を盛んにうたふついで其他練習。「エ」の頭字つくことは、數へ方あそび。</p>	<p>自由あそび 幼児製作のカルタ、双六、サイコロにて遊ぶ、女兒は續いて給まじごとに入り、男兒は殆ど全部戰爭ごつこになる。まじ事道具を製作するもの多し、ついでモンテソリー教具をつかつて遊ぶ、ことばつなぎ。談話（雲子、バラ子）繪に發表（雲、其他）</p>	<p>自由あそび 石拾ひ（色々の形、大ききの石拾ひ集めてなるべく數へる） 觀察 じゃんけん（數へて遊ぶ） リレー、旗送り、椅子ならべ、椅子おくり、椅子とり等。カード遊び「オ」のつくことば、言葉つなぎ。寫生（りんご）一同各自の前の林檎をかき。唱歌、遊戲練習。</p>
3	<p>自由遊び繪、手工、談話（日曜生活發表） 誕生會仕度（おくりもの作り） 唱歌、遊戲（練習） 自由あそび 「ク」の字のつく語呼びあげ</p>	<p>自由あそび 誕生會仕度（つゞき） 小學校門—半天神—磯川小學校—傳通院（歸園後繪に發表） 繪についての各自の話 唱歌、本よみ、お話遊びの練習</p>	<p>自由遊び 誕生會々場つくり椅子はこび開會 一月生れ誕生會 運動遊戲練習會 觀察 （冬芽、枯葉、常綠樹等）</p>
4	<p>小學校入園調査日に付休み</p>	<p>自由あそび（お休の話） 幼児保母合作の双六にて双六遊び。（さいころも名札、凡て幼児製作） （各自双六及凧（塗繪切紙）を作る。） 唱遊（凧、マイダウリー）其他 小學校の庭（みかん橙々、あじさい、冬芽等）</p>	<p>自由あそび 談話（カリフの鶴） 繪（右の繪の内容について） カード遊び（文字、色） 運動遊戲（リレー、相模其他） 一月が終る。明日から二月かゝる事。</p>

六	五	四
<p>自由遊。霜、霜柱のつらゝ、か げらふ、焚火等観察。 かるた、双六作りつゞき。 表町—同心町—竹早町通り觀 祭</p> <p>繪(電車、自動車、獅子まひ等) 唱、遊(あられを主とし其他)</p>	<p>自由遊(同上) 唱、遊(あられ其他) 「ウ」字のつくことば</p> <p>自由遊び、かるた、双六遊び及 びかるた製作のつゞき、双六作 り初まる。 外に遊ぶ者歩調と數稱と結び つけてあること。 自由に場處を定めて歩數をか ぞへる事等の指導。 窓、木、助木、石段をかぞへ て遊ぶ。</p>	<p>自由あそび かるた、双六(昨日同様長く つゞく) 後かるた作りとて費用紙に畫 をかいて切り遊ぶ。その他は 遊戯室に本屋ごつこを初む。 (定價作り、金、店をつくり賣 買をはじむ) 談話(鼻の小人)繪。 唱、遊(お客様、あられ其他) 「イ」の字のつくことば及こと ばつゞき。</p>
<p>自由あそび お誕生會仕度つゞき(手技) カード遊び(動作を命令する ことばのかいた もの)</p> <p>「キ」の字のつくことば呼あげ 身體検査</p>	<p>自由あそび 自由あそび 走巾とび、とびくら、平均臺、 相模、羽根つき、かけふみ鬼、 なはとび等 その間に主として數の整理 「カ」の字のつくことば お誕生會仕度、おくりものつく り(手技) 唱歌、遊戯、樂隊、本よみの選 定及練習。</p>	<p>自由あそび 「カ」のつくことば「カ」のつく 名前の人さがし 第一部お話會 「幼兒、先生、お客様」 唱歌、お話あそび、樂隊等 遊戯(總練習)</p>
<p>自由遊び(夕の字のつくことば 呼あげ) 保姆幼兒合作、人形の家作り (まゝごと) 塗繪、切紙(手技) にて人形の椅子、ティアル、 寝臺作り等(豆、キビガラ、手 工テープの材料も使ふ) 唱歌(お客様、あられ雪、其他) 遊戯(マイダウリー)其他</p>	<p>自由遊び(キヒガラの人形作り 等) 持ちよつた人形或は幼稚園の 人形をもつてまゝごと。 男子は多くヒル積木で家を作 る、その内に汽車も電車も出 来る。 談話、錫の兵隊 塗繪及び自由畫 お客様(唱歌)マイダウリー(遊 戯)其他</p>	<p>自由遊び(まゝごと、人形遊び) 人形あそびよりきせかへ人形 (手技)製作に入る(男は多く 家つくり) お客様の唱歌練習其他 マイドウリー(私の人形)遊戯 (新授) 明日は家から人形を持つてき てもよい約束す。</p>



童話

水谷年惠

ちび助

或處にお百姓がありました。おかみさんと二人きりで、子供がありませんでした。或日二人が畑へ行つて働いてゐる時、

「子供が欲しいね。」

とお百姓が言ふと、

「一人でいゝから欲しいね。」

と、おかみさんが言ひました。するとだしぬけに「僕でもよけりやあ、子供にしておくれ。」

と大きな聲で叫んだ者がありました。二人はびつくりして、誰だらうと周りを見廻しましたが、誰

も居りません。二人は不思議に思つて、

「どうしのでせうね」

「大方狐のいたづらだらう。」

と、言つてゐると、

「僕だよ、僕此處にゐるんだよ。」

と、又聲を掛けました。二人がしやがんでよく見ると、一株の玉菜の上に小指の頭程しかない。小僧が、ちよこんとしてゐました。二人は二度びつくり、

「お前は何だ、それでも人間か。」

お百姓が尋ねると、

「人間ですとも、僕はこれでも本當の人間ですよ。」

と答へる、おかみさんが、

「何てちつぽけだらうね。」

と言ふと、

「僕だつて、役にたつこともありませんよ。ねえ僕

を子供にして下さいよ。」

と頼みました。それでおかみさんがちび助を摘み上げて掌に載せて、

「ぢあ連れて行つて、うちの子供にさせよう。」

と言ふと、お百姓も、

「うんさうしよう。」

と言つて、ちび助を二人の子供にして、可愛がりました。

或晩ちび助のうちへ泥棒が這入りました、其の

晩ちび助は豆俵の上に眠つてゐました。泥棒は其

の豆俵を擔ぎ出して、外に待つてゐた馬の脊にい

はへ付けて、盗んで行きました。ちび助はうまく豆俵にしがみ附いて居ました。少し行つてから、ちび助はいきなり大きな聲で、

「泥棒、待てつ。」

とどなりつけました。ふいをくらつて、泥棒は誰かに見附けられたと早合點して、馬をほうつて一散に逃げて行つてしまひました。ちび助は

「あつは、は、は、は。」

と笑つて、馬の脊の豆俵につかまつたまゝで、

「はい、はい、どう、どう。」

と上手に、馬に掛聲を掛けました。馬はくるりと向きを替へると、ばか／＼／＼とちび助の家の方へ歩き出しました。

馬がちび助の家の前で來ると、ちび助は大きな聲で呼びました。

「お父さん、お母さん、馬に乗つて歸つたよ。」

何も知らずに寝てゐたお父さんやお母さんは、

驚いて起き出して、兩戸を開けて見ました。表には豆俵をつけた馬が一匹立つてゐます。

「ちびやどうしたんだ。」

「何處の馬だえ、豆俵なんかのせて。」

「お父さん、お母さん、此の豆俵はうちのですよ。」

さつき泥棒に盗まれたんだが、僕がとりもどしたのです。」

「さう言へば其處に在つた豆俵がないね。」

「馬はどうしたのだ。」

「馬か、馬は泥棒のだが、ほうつて逃げて行つてしまつた。」

お父さん、お母さんはちび助が手柄をした事を大層褒めました。馬は泥棒に返しやうがないのでうちに飼つておきました。おとなしい馬で、豆助の言ふ事をよく聞き分けました。豆助が馬の耳の穴へ這入つて、色々言葉を掛けると、お使にも行くし、田圃へも出掛けず。馬が働くのでも百姓

もおかみさんも大層助かります。

或時、ちび助が、いつものやうに馬の耳の穴に這つて、田の中で馬を働かせてゐました。すると其近くを一人の旅人が通りかゝりました。其の時馬が勇ましい聲で、「ひひん——」と一聲音なきました。之を聞き附けた旅人は馬の側へ走つて來て、

「お、福か、お前はこんな所に居たのか。」

と言つて、馬の鼻を撫でてやりました。いつかの泥棒ではないかと思つて、そつと馬の耳の穴から顔を出して覗いて見ると、大層立派な旅のお方でした。旅のお方は

「はてな、福だけ田圃へ來てゐる筈はない。誰か連れて來てゐる人があるに違ひないがなあ。」

と言つて、そつちこつち見廻してゐます。ちび助は、

「もしく僕が連れて來てゐるのです。」

いでしまいました。

「旅のお方、僕は馬の耳の穴の中に居る、小さな小僧です。此處です、此處です。」旅のお方が馬の耳の穴を見ると、小さな／＼ちび助が居るので、又々びつくりしました。

「もし旅のお方、僕をあなたの掌の上へ載せて下さい。」

旅のお方が、ちび助を掌へ載せると、ちび助は「僕のうちへ、此の馬を連れた泥棒が這入つて豆俵を盗み出したんです。其の豆俵に僕がつかまつて居て、途中で、泥棒が此の馬をほうつて逃げて行つてしまいました。」

と話しました。旅のお方は。

「あゝさうですか、此の馬は福といふ名で私の家の大切な馬でしたが、或晩泥棒に盗み出されてしまいました。」

と言ふと、旅のお方は誰がものと言つたのかと言

ひます。ちび助は、

「それでは此の馬はあなたののですか、それならあなたにお返し申しませう。」

と言ひました。旅のお方は、

「いや／＼、此の馬はもうあなたの物です。あなたの心掛に感心しましたから、あなたに上げませう。」

と言ひましたので、ちび助は大喜びに喜びました。

た　ら　り　柿

柿の木が一番高い所に、たつた一つ眞赤な柿の實が残つて居ました。鈴なりになつて居た柿の實は、皆食べられてしまつて、最後に残つたたつた一つの柿の實は、柿の木が一番高い所に、うまさうな色をして赤々と光つて居ました。葉っぱも一枚残らず風に吹き落されてしまつて、柿の木は枝ばかり、たつた一つきり残つてゐる其の柿の實は

此の柿の木の実物のやうに見えました。

トク坊は柿の木へ登つて、其の柿を取らうとしました。が、あまり高い所にあつて、どうしても其處までは手が届きません。長い竿を持ち出してはたいて見ましたが、とてもはたき落す事は出来ません。石を投げ附けて見ましたが、落ちては来ませんでした。さてどうしたものかと、トク坊は毎日柿の木の下へ来ては、うまさうな其の柿の實を見上げて居りました。

トク坊の居ない時には、鳥が来たり、百舌が来たりして、ちよいくとつゝきました。或日一羽の鳥が柿の木にとまつて。

「一つ御馳走にならうか、カア〜。」

と言つて、つゝき出しました。之を見付けたトク坊は、そら大變と駆け出して来て、

「ほい、ほい。泥棒鳥、ほい、ほい。」

と鳥を追拂つてしまひました。

今度は百舌が来て、やかましい聲で、

「いよう柿君、御馳走になるよ。」

と言つて、つゝきました。トク坊は食べられては一大事と、

「百舌のおしやべり、ほい、ほい。」
と追拂つてしまひました。

柿はますます赤く熟して、西の山へ這入るお天たう様の色よりも濃くなりました。トク坊は、
「どうしたら、あの柿が取れるかなあ。」

と頭を振つて考へましたが、いゝ考が出て来ません。も一度柿の木に登つて、手を伸して見ましたが、手の先よ、づうと〜高い所に、柿の實はうまさうな色を見せて、ちつとして居りました。

「ちえつ、あた福柿！」

腹を立て、トク坊は、柿の木から降りて来ました。今度は、何時もの竿を持ち出して来て、あき樽の上に立つて、一生懸命はたき落さうとしまし

だが、柿はいや／＼とかぶりを振つたばかりで、
 どうしてもはたき落す事が出来ません。トク坊は、
 石を拾つて、

「この腐り柿め。」

とどなつて、はつしと投げ付けました。ぽかつと
 石があたつたとたん、眞赤な柿の實は、たらりと
 トク坊のあほ向になつた額の上へ、とどろのやう
 になつて垂れました。

森の中の古靴

A B C

夕焼のきれいな或夕方の事でした。鳥も獣もみ
 んな仲よく手をつないで散歩に出かけますと大き
 な樫の木の下に誰か旅人の棄てた古い靴がござい
 ました。みんなこんな變てこなものを見た事がな
 いので小鳥達は化物ぢやないかしらとブル／＼慄
 え出しました。すると年老の熊さんが黒い眼玉で
 デツと靴をみながら

「小鳥さん、そんなに恐がる事はいりません。こ
 の年老のいふ事を聞きなさい。これは堅い／＼
 果物の殻です。みなさんの柔い羽でさすつてご
 らん！」

といひましたので小鳥達はすつかり安心しました
 「さあ、皆さん、まだ／＼恐ろしいものが出て來
 るかも知れないからさつさと歸りませう」

と熊さんが先頭に歩き出さうとしますと

「ヤ、こら、待て！」

と狼が牙をむき出して呼び止めました。

「これが果物の殻だつて？ 小鳥さん、熊君のい
 ふ事は嘘ですよ。私のいふ事を聞きなさい。こ
 れは大きな鳥の巢です、この澤山の小さな穴は
 小鳥の出入口でこつちの深い所は親鳥の卵を生
 む所なんです」

小鳥達は成程さうかも知れないと思つたので

「熊さんの嘘つき！ 鳥の巢ですよ。チュ、チュ

「チユ」

と狼に賛成しました。

熊はなか／＼承知しません。

「己ほどの物知りを馬鹿にするとは」

「僕のいふ事が嘘だつたら何でもやるよ」

と互に意地を張るのでとう／＼熊公と狼と取つ組を始めました。

これを見てゐた人のよい山羊、長い顔して

「モシ／＼熊さん、狼さん、喧嘩はぢよし、二人

とも實の所、間違つてゐるんです。果物の殻で

も鳥の巢でもありません、これは古い／＼木の

根です」

と横へ下つてゐた細い紐をなで／＼いひましたが

熊さんも狼も聞き入れませんが、今度は喧嘩をやめ

て山羊に向つて來ました。今にも山羊がやられ様

とする所へ鼻が飛んで來て

「ホー、ホー、山羊君を離し給へ」と嘴で熊や狼

の眼や鼻をつゞきました。

「何だつて、皆の知慧のない事、呆れるばかりぢ

や、わしは廣い世界を始終旅行してゐるので皆

の知らない事をちやんと知つてゐる。このわし

のいふ事を聞くがよい。これは人間の穿く「ク

ツ」といふものぢや、君等にはいらぬものだ

が人間には大事なものだ。わしは長年人間の中

にゐた事があるのでたしかに覺えてゐるぞ」

と聲高らかにしゃべり立てました。

しばらくは熊も狼も山羊も小鳥もみんな呆氣に

取られてなりを沈めてゐましたが急に騒ぎ出しま

した。

「人間つて何だい？」

「靴つて何？」

「君は人間を見たつてほんとかい？　嘘を一つで

もいつたらきかんど」

「ハ、人間つてな脚が二本あつて狼の様に立つ

て歩くんだ。それかといつて鳥の様に今では

飛べるし、我々の分らない言葉も知つてゐるよ
それあ、人間ほど伶俐なもの世の中におない
な、今に君等を征伐に来るかも知れないぞ」

「生意氣な事をよせ、脚の二本しかないものが脚
の四本ある我々よりも何でも出来、何でも知つ
てゐるつて法があるものか」

「人間が飛ぶつて、すぐ落ちるにきまつてゐる、
私等この羽は小さくても落ちたためしはない」
「我々を征伐に来るつて？ 我々のこの手に、こ
の牙にまざる武器が何處にある？」

「大體、君はいつも生意氣だ、今度は我慢が出来
ぬ、さあ、皆さん、梟の奴を退ひ出さうぢやあ
りませんか」

との熊さんの言葉にみんな一同にドットせめかけ
ました。

「これは危い」

とみた梟

「何といつたつて靴は靴ですよ、ハアハア！」
とみなを見下ろしながら暗い空を飛んで行きまし
た。終（外國讀本より）

駒馬の胸の赤くなつたお話

昔々或寒い北の國に火の番をしてゐる老爺さん
と息子とが居りました。火種が消えたら最後、何
處の家にも火の氣がなくなり一晩の中にみんな凍
え死んでしまふか、それとも白熊の鋭い牙で八つ
ざきにされて死ぬかどちらかでございますから
二人は夜も寝ないで交るく、一生懸命に番をして
ゐましたが、可愛想に老爺さんは風邪が元で重い
病氣にかゝり毎日悪くなつて行くばかりでした。
息子は老爺さんの世話やら火の番やら始めの間は
甲斐々々しくやつてゐましたが段々疲が出て来て
眠くて堪らなくなりとうとう火の事も忘れて眠つ

てしまひました。

今か／＼と息子の眠るのを待つてゐた白熊は息子が眠つてしまふと家の中へ躍り込んで今にも消えさうな火種をバラ／＼にかき散らしその上にビシヨ濡れの體をころがして、もうすつかり灰になつてしまつたと思ふ時分白熊は「これから自分の世界だ」といはんばかりに尾をふり／＼喜んで穴に歸つて行きました。

丁度その時何處からか飛んで來た一羽の灰色の駒鳥が窓からのぞいて白熊のする事を見て居りましたが白熊が歸つてしまふとすぐに爐端へかけ寄りすばしい眼玉で中を探しますとやつとホタル火の様な火種が灰の中から光つてゐるのが見つかりました。どうかして火を起したいものだと駒鳥は炭の上のつてフウ／＼息もつかずにふきながら可愛い／＼小さな羽でバタ／＼あふぎました。炭も灰も、すつかり白熊の體でぬれてゐますので、

なか／＼つきません。時々消えさうになります。

駒鳥は灰だらけになつて尙も一生懸命にあふぎますと段々火が大きくなり自分の乗つてゐる炭にも火がついて胸も焼け相になりましたがそれでも駒鳥はやめません。尙々懸命にあふぎたてました、すると眞赤な火花がドットあがり、火は立派に起りましたので安心して駒鳥はスーッと何處かへ飛んで行つてしまひました。不思議な事にその駒鳥の止まつた所には何處でも火が起つて何處の家でも火の消える様な事がなくなりました。冬になつて白熊がやつて來る時が近づいて來ても北の國の人達は安心して夜休む事が出来る様になりました。今でも北の國では冬になると何處の家でも温い爐を圍んでお老爺さんは長い髭をなでながら駒鳥の胸はどうして赤いかつて子供等にくり返へし／＼お話をして駒鳥の恩を忘れないといふ事です。

(外國讀本より)

進 軍

葛 原 幽 歌

梁 田 貞 曲



ト ト ト ト ト タ タ タ テ ト テ ト タ タ タ タ タ



ト テ ト ト タ タ タ タ タ ラ ッ パ ノ オ ト ハ イ サ マ シ



イ ム ネ ニ ハ ク シ ャ ウ ビ カ ビ カ サ セ テ オ テ テ ニ



サ ア ベ ル ギ ラ ギ ラ サ セ テ ア ト カ ラ タイ シ ャ ウ



オ ウ マ デ ク ル コ ト ト ト ト ト タ タ タ テ ト テ ト



タ タ タ タ タ ト テ ト ト テ ト タ ト タ

——(大正幼年唱歌)——

進軍

土川五郎

トトトトトト……右手に銃を荷ひ左手は下げたるまゝ左足を斜左前に出し直ちに元に復し

タタタ……右足を斜右前に出し直ちに元に復す

テトテトタ……三歩行進す

タタタタタ……前の「トト……」に同じく左足前直ちに元に復す

トテトト……右足を斜右前に出し直ちに元に復す

タタタタタタ……三歩行進す

喇叭の音は……右手に喇叭を持ち斜右上を向きて吹く

勇ましい……吹きつゝ三歩行進す

胸には……右脇を曲げ右手を胸の右方にあつ

勲章……右手其まゝ左手を胸の左方に充つ

ピカ／＼させて … 両手を左右に手先きを内外に回轉せしめつゝ開く

(右手は少し上に左手は少し下へ)

お手手に …… 左手を左腰の所に劍を握る如くし右手に劍のつかを握る。

サアベル …… 左手は左下に伸ばし右手劍を握りたるまゝ右上方に抜きあげ。

ギラギラさせて …… 三步行進しつゝ右拳を内外に回轉ず。

後から …… 左手にて手綱を取る

大將 …… 右拳を右腰に

お馬てくるよ …… 左手にて手綱を軽く動かしつゝ三步行進す

トトトトトタタタテトテトタ …… 其儘スキップ

タタタタトテトトテトタタ …… 劍を右上にあげ劍を振りつゝスキップ最後一足跳に足を揃へて止ま

る。

x

x

x

x

x

x

x

x

x

x

幼稚園懷舊談話會の日に

新庄よしこ

昭和三年十一月二十九日 女子高等師範學校附屬幼稚園遊戯室で、幼稚園懷舊談話會が催されました。時、恰も御大典の盛儀滞りなく終り上下舉つてめでたさによるこびあへるよき秋に、又女子高等師範學校創立の意味深き紀念日の當日にこの集りのあつたといふのは、何といふうれしい事でございます。此の日おいで下さいましたのは、豊田英雄子先生、小西信八先生、下田田鶴子先生、大久保介壽先生、和田實先生、雨森釧子先生、氏原銀子先生、膳真規子先生、其の他の方々でそのお一方だけにお目にかゝるさへ嬉しいきはみてございますのに、皆様がお揃ひ下されその上當時の幼稚園の事どもを親しくお話し下さいました事は、同じ道に進まうとして居る私共にとつて何といふ得がたい好機、千載の一遇と申しても過言ではないと信じます。しかも最もおまち申して居りました豊田先生は水戸より態々まげて御出席下さいましたし、又小西先生は御風邪の中をおしてお越し下さいました事を一層ありがたいと存じますと同時に休日でもないこの日に、熱心な各幼稚園の方々が澤山おいで下さいましたことも厚くお

禮を申あげます。

幼稚園が如何にして創められたかといふ當時の消息を豊田小西下田の先生方より委しく承りました。氏原先生は當時の攝理中村正直先生直筆の半折をお持ち下され、忙裏求閑閑以仙動中有靜靜如山、君看行雲流水妙只在閑忙動靜間と、この詩を氏原先生がまことに凜然としたお聲で朗詠して下さいました時には思はず中村先生の御風貌をまのあたり拜した様の感に打たれたのでございます。つゞいて氏原先生が笏拍子シヤクヒヤウシをうちになるに合せて、下田、雨森氏原膳の先生方が「家鳩イヘバト」といふそのころの歌をおきかせて下さいました時はこの一堂に會した人々の心と心との打ちとけ合つた聲がこゝに流れ出たかと思はれる程なごやかな氣が漲りわたつたのでございます。

さてかうしてお話を承つて居りますと今迄お年よりなど、思ひもし申上げもして居た諸先生方がどうしてどうして御態度なり、お聲なりのいかにも生氣に満ち／＼ていらつしやるのを拜見して、その御年齢をわが身に比べてわれから老いゆくことのちろかさ、又始めて考へついたと思つて今迄して居た事がそれはもう疾うにこの先生方の手によつてなされ、又深い研究もつまれてあつた事を知る恥づかしさとあれこれ思へば、今日お集り下さいました先生方が、同じ道をあとより歩みゆくものゝ爲に最も力強い無限の光をなげかけて下さいました事と深く感じるのでございます。

次號の本誌上に今日お話し下さいました事どもを掲載いたします故どうぞ御らん下さいませ。

今日の限りなきよろこびを思ひのまゝにあらはし得ぬもどかしさを感じつゝ。(二十九日夜記す)

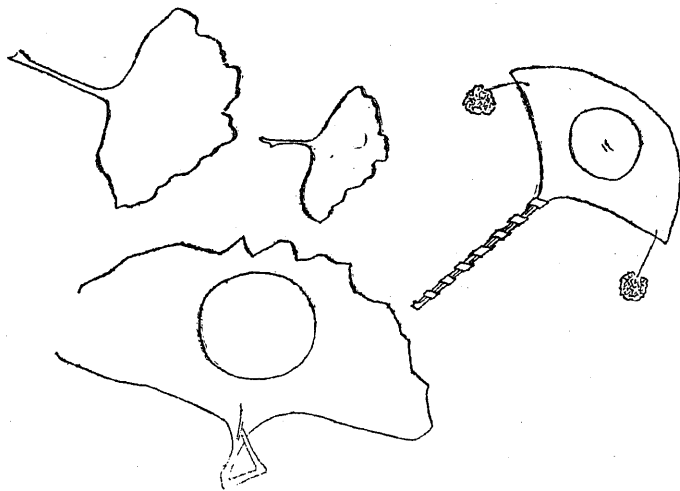
自然物の玩具に就て (一)

膳 眞 規 子

自然物を工夫して玩弄致します事は、古くより家庭でいたして居りました事で、今更事新しく申上ます程の事では御さいませんが、こゝに五六點を挙げますれば、庭の生垣から蝸牛を採り來まして、眼を出せ鎗出せと弄び、又烏賊の甲に帆を付けて舟として鹽に浮べ、又伊勢蝦の眼に竹くしをさして人形の顔に利用し、笹の葉で舟や三角包み、又若芽の巻葉で龜の子や籠を作り、木の葉で草履や笛を作り、蜜柑の皮で皿や籠、又其袋をくくり猴とし、又袋の一方を開きて、ひつくり返し、指頭に被せ、お獅子ばく／＼と動かして、觀音様參りなど、言つて、母の膝下で打ち興じたる事は今尙記憶として残つて居ります。

自然物を幼稚園教育の上に試みましたは、明治二十六年の秋の頃で御座いました。最初の程は如何と存じましたが案外幼兒より簡單にして巧みなる利用を學び、又之れに幾分の調節を加へまして使用いたしましたが、非常なる興味を以て歡迎されましたので、爾來自然物を得る機會ごとに利用いたしました。其何分土一升が金一升到に價する都市の中央にある園の事として、材料を得ます事が困難で御座いました。其

れ故に休日又は機會を作り郊外へ採集に行く事に努力をいたしました。此處に有難い事は幼児の家庭



に非常なる同情を得まして、何れかに旅行又は郊外に散策されたる節には必ず種々の自然物の採集されたるものを寄贈せられたるにより使用上大に便宜を得たる事と、今一つは地方より參觀に來られたる人の中には非常に自然物利用に共鳴せられ、地方には自然物の材料豊富にて何れも廢物同様視せられてあるものを斯くも利用巧みに効果ある玩具に轉用され居る事實に有益に參觀せしめて、歸國の上寄贈せんとて小包郵便又は鐵道便で送附さるゝ方々の年一年毎に増加して遂には都會の地に居りながら山野の自然物も又海邊の自然物も材料豊富に得られ幼児は思ふ儘に使用され得たる事は全く御同情厚き諸氏の賜と常に感謝して止まざる次第で御座います。

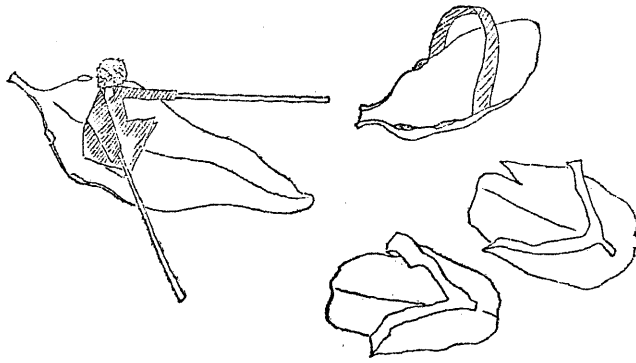
自然物を使用致します事は手技品購求上費用の經濟となるのみならず幼児に自然物の觀察及び理科的知識を確實に得せ

しむる點には多大なる効果が御座います。

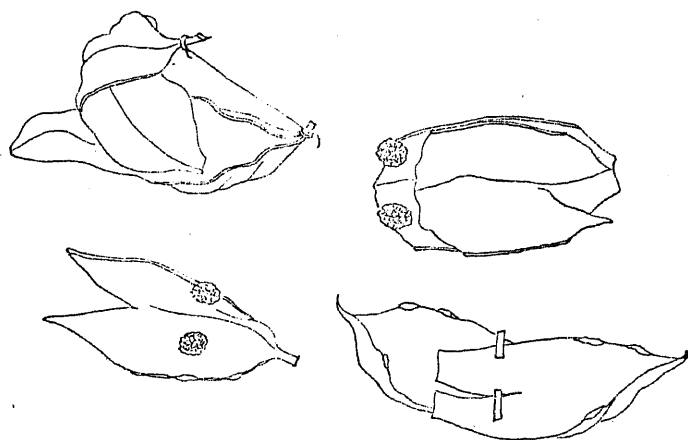
種々の自然物を與へて幼兒に玩弄させますに其利用並に工夫の巧みなる保姆の考に優れる發表をなす

には實に驚く事て其想像作用により大人の及ばざる命名をなす事の皆様其實施なされる事によりて其効果を見られたし。

自然物は凡て貴き材料として使用されますが今左に至て得易き材料を挙げますれば



- 1 木の實 木の葉 貝殻 小石 砂 小枝 草花等
 1 小枝、草花等 積木遊びの背景に又は周圍の裝飾として
- 2 貝殻、木の實、小石、木の葉 排べ方遊びの材料 種類の多
 い程變化多く玩弄上最も興味多大なり。
- 3 松かさ一名松ぼくり
一名ちりん かさの間に色紙を入れて花を作る。
 かさの間に名刺をさし又旗立て鳥等を作る。
- 4 三月桃の節句遊び 雛 立雛 其他の道具類を凡て自然物斗
 りで工夫した物五十種以上
- 5 五月端午節句遊び 同上 以上は別に用費を要せず工夫になりし物斗りて
 家庭に於て數百金を投じて求めたる物以上。幼
 兒に興味深し
- 6 椿の花 櫻の花びら 繫き方に利用



柿の花 藤の花 同上

7 珠數子球 糸に繋ぎ又は針金に通し種々の形を作る

8 空豆のさや ポート又籃を作る

9 竹の皮 立て雛 上下 人形の衣服等を作る

10 麥藁 鳥花 馬 虫籠 手桶 指輪 繫方

11 唐もろこしの皮 姉様 人形 松茸 ほふづき等

12 同毛 馬の尾 其他動物の尾に使用

13 金柑 人形の顔 繫ぎ方に使用

14 水瓜の皮 龜の子 舟 又種にて種々なる紋形

15 小水瓜 小南瓜 燈籠 容器等

16 口なしの花 同實 花は水車を作り 實は染料遊び

17 菊の花 種々なる菊花を紙上に平らに並べて重き押をなし後

取出して毛氈を作る

18 梧桐の實 人形の首又は豆細工に代用繫ぎ方等

19 同さや 舟 籃 ポート 草履 さじ 杓子 面 帆掛舟

スコップ 蟬 其他種々

20 銀杏の葉 扇 舟 燈籠 家 塔 天幕 團扇 雛立雛 喇叭 羽子板 ラヂオ 其他種々

21 檜かんな屑 檜のかんな屑最もよし 手提籠其他種々

22 大どんぐり ユウカリの實 獨樂其他人形の首を作る

23 せんだんの實 人形の顔に最もよし 其軸で種を作る

24 柏の葉 櫻の葉 柿の葉 武者人形を作る

25 蘭 掛花器 飛行機 馬 蛇等

26 猫柳 ねづみ

27 藤の實のさや 藁のふし 大刀を作る

28 種々の草花 すみれ たんぽぽ 蓮華草等を以て花束とし胸部に勳章として付ける

29 松葉 箒 松葉すもふ 草履其他五十餘種

30 鮑貝 大い植木鉢 小は手提 紙よりで手を付けて

(さしるば 銀杏の葉・桐の實にて作りしもの)

——つゞく——

雜 錄

十一月二十四、二十五の兩日、白河町に行はれた保育大會は左記の如くである。

第一日

教育功勞者の表彰

十一月十日、御大典に際し、官公私立の學校幼稚園の學校長・教員・園長・保母並に社會教育従事者中教育功勞者として、文部大臣より表彰された者のうち、幼稚園關係者は左の通り。

土川五郎 多田房之輔 山下つや 石川いそ

金子きた 河合千代 (以上東京府)

須子トミ (福島縣)

小川婦志 (熊本縣)

宇式かん 浦野みち (以上静岡縣)

戸田シズ (大阪府)

第十九回福島縣保育大會

一、開會の挨拶
一、實地保育參觀(白河幼稚園)

會 集 自午前九時三十分
至同 九時五十分

入 室

調子練習 四 ツ 日

禮

朝ノ歌

御挨拶 參觀ノ皆様ニ

唱 歌 オモチヤノマーチ

禮 終 リ

自午前九時五十分
至同 十時二十分

松ノ組 遊戲(種目) 四ツ目、黒人坊
ヒコーキ、デン、虫

梅ノ組 手技(摺ミ紙)

スキツブ

桃ノ組 遊戯(種目)

キユビ、
金太郎、蛙、
以上

一、保育批評會

一、死亡會員追弔式

一、永年勤續者表彰

勤續年數

職名 氏名

幼稚園名

十二年四ヶ月 理事 星 榊藏 須賀川幼稚園

同 同 菅野運四郎 同

同 同 岡 儀三郎 同

十年十ヶ月 保姆 玉川喜代子 若松幼稚園

一、祝 辭

一、協 議 會

一、建議題 (若松保育研究會提出)

1、縣内幼稚園ニ對シテ縣ヨリ相當ノ補助金ヲ交附セラレン事ヲ其ノ筋ニ建議スルコト

(理由) 經營困難ノタメ設備内容共不充分ニ

付キ縣補助ヲ受ケ益々其向上發展ヲ歸セ

ントスルニアリ。

二、研究題 (福島幼稚園提出)

1、遊戯ニ於ケル性的の差違ニ就テ

三、談話題 (梁川中央幼稚園提出)

1、園内ニ於テ宗教上ノ儀式ヲ行フテ差支ナ

キヤ (同 園 提 出)

2、入園以來他ノ者ト遊バザル特殊園児ヲ如

何ニ取扱フベキヤ (若松幼稚園提出)

3、現近家庭ニ於ケル幼兒ノ禮儀作法ヲ問フ

(郡山幼稚園提出)

4、近時各國ニ於テ新ニ實施セラレタル保育

法アラバ承リタシ

四、協 議 題 (郡山幼稚園提出)

1、縣保育大會内ニ園長協議會ヲ置キ實際保育者ニ關係ナキ問題ノ討究ニ供セラレタシ

五、宿 題

子供ノ言葉ノ實際ニ付イテ

研究發表

滿三歳以下の幼兒を園兒として取扱ての

雜感 梁川中央幼稚園長 和田信保

一、閉 會

第二日 講習會として、午前九時より午後四時

まで倉橋教授の「幼稚園教育の方法の要義」の講演あり。この日の會員は前日の縣下幼稚園長、保姆に、小學校訓導、白河町婦人會員加つて二百餘名に達し、頗る盛會であつた。

全國教育大會保育部會

鴻古の大禮の都、京都に於て、十一月二十五日より二十九日の五日間、全國教育大會が開かれた。

保育部、小學教育部、師範教育部、中等教育部、女子中等教育部、社會教育部、特殊教育部より或る大會である。保育部會の議事は左の如し。

文部省諮問

幼稚園教育ノ一層普及發達セシムル方法如何

右ノ答申

1、文部省ニ幼稚園教育調査機關ヲ設置シ幼兒教育ノ普及發達ニ關スル根本方針ヲ確立スル

コト

2、文部省及各地方廳ニ幼稚園專任ノ指導監督

機關ヲ設クルコト

3、女子師範學校ニハ必ず幼稚園ヲ附設シ且ツ

保姆養成ノ機關ヲ設クルコト

4、女子師範學校卒業生ニハ直チニ保姆ノ免許

狀ヲ交附スルコト

5、市町村其他ニ幼稚園ノ設置ヲ獎勵シ且ツ國

庫補助金ヲ交付スル等コレガ保護ノ途ヲ講ズ

ルコト

6、幼稚園保姆ノ待遇ニ關シ左ノ通り改善スル

コト

一、幼稚園令施行規則第十六條ノ但書ヲ削除

スルコト

二、年功加俸給與ノ途ヲ講ズルコト

7、幼稚園令ノ趣旨ノ徹底ニ努ムルコト

右調査報告候也

委員 米山エン

山本盛太郎

近藤伊佐雄

田中しげ

峯堅雅

中川良太郎

嶺岩雄

荻行密岩

富田八千穂

佐々てつ

松村茂

鹽崎多眞

越路節

委員長 多田房之輔

全國教育大會議長 林博太郎殿

第一號議案 各府縣女子師範學校ニハ必ス附屬幼

稚園ヲ置キ且保姆養成機關ヲ設ケラレンコトヲ

其筋ニ建議スルノ件 帝都教育會提出

第二號議案 幼稚園保姆ノ養成機關ヲ確立スルコ

ト 香川縣教育會提出

第三號議案 師範學校規定第七十四號中女生徒ヲ

置キタル師範學校ニハ成ルヘク附屬幼稚園ヲ設

クヘシトアルモ『成ルヘク』ノ文字ヲ削リ必設

スヘキコトニ規定ヲ改正セラレムコトヲ文部省

ニ建議スルノ件(此の議案は師範教育部會議題

中にも同一提出者より提出されてゐる)

和歌山縣教育會提出

第四號議案 幼稚園ニ適切ナル三大節奉祝歌ヲ撰

定シテハ如何 名古屋 保育會提出

第五號議案 市町村立幼稚園保姆年功加俸ノ制ヲ

新ニ設ケラレムコトヲ其筋ニ建議スルコト

京都市保育會提出

出席者は遠く大連から、九州、東北、北海道に互つて、二七二名。

第二十五回關西聯合保育會

十二月二日、京都市室町尋常高等小學校に開催。

出席者千餘名、非常なる盛會で、本會の倉橋惣三氏も東京より出席された。

一、一同着席

一、唱 歌 君ガ代

一、開會ノ辭 京都市保育會長

一、祝 辭 京都府知事

京 都 市 長

一、會務報告

一、議 事

協 議 題

1、左記事項ヲ其筋ニ建議スルノ件

一、恩給法第九十九條第二項ヲ削除セラレタ

キコト

二、幼稚園保母年功加俸ノ制ヲ新ニ設ケラレ

タキコト

三、幼稚園令施行規則第十六條但書ヲ左ノ通

改メラレタキコト

「但月俸額ニ付テハ園長及保母ハ正科正教

員ニ準ズ」

役 員 會 提 出

京都市保育會提出協議題

說 明 案

本建議案ハ第一恩給法中改正ノ件、第二年功加俸ノ件、第三俸給令改正ノ件デアリマス、是等ハ本會ニ於テ再三建議シタ問題デアリマスガ、今尙實施セラレナイ爲メニ重ネテ建議シタヒト思ヒマシテ御協議ヲ煩ハス次第デアリマス。

第一恩給法第九十九條第二項ヲ削除セラレタキ事

恩給法（第四十二條第四項）ハ准教職員ノ勤続年數ヲモ一定ノ條件ノ下ニ恩給年限ニ加算スルヲ本則トス。トアリマスガ第九十九條第二項ニ於テハ之ガ否定サレテ當分通算ハ認メラレナイ事ニナツテ居マスカラ小學校ノ准教員ガ引續キ正教員トナツテモ、幼稚園令施行前ノ保姆（准教職員）ガ其後引續キ教職員ノ資格ヲ得ルコトニナツテモ從前ノ勤続年數ハ全然通算サレナイ事ニナツテ居マス。然ルニ准教員ト正教員ノトル職責ニハ多少ノ相違ハアツテモ其ノ國家ノ爲育英ニ盡ス精神ニハ何等ノ變リアルモノデハアリマセン。殊ニ幼稚園令施行前ノ保姆（准教職員）トシテノ保姆トノ仕事ニ割然タル區別ガアルト言ヘバ何等ノ區別變化アルモノデハアリマセン。凡テノ公務員ガお互ニ在職年數ヲ通算サレテ居ルノニ比ベテ獨リ教職員ノミガ從來ノ規

定ニ依ル現今ノ制度ハ甚タ不合理ノ嫌ガアリマ

スカラ過去ノ努力ニ對シテモ相當恩給ノ恩典ニ

浴セシメタイト思ヒ本建議ヲ提出シテ第九十九

條第二項ヲ削除スル様望ンデ居ルノデアリマス

第二市町村立幼稚園保姆年功加俸ノ制ヲ新ニ設ケ

ラレタキ事

現今小學校教員ハ勿論中等學校職員師範學校附

屬幼稚園保姆ニ對シテハ此ノ年功加俸ハ己ニ給

與セラレ近ク私立學校ノ教職員ニモ之ヲ給與ス

ル様準備サレツツアルト聞キマスノニ獨リ市町

村立幼稚園保姆ニ對シテ此ノ制ノ無いノハ小學

校教員ニ比シテ著シク恩典ヲ均シクシナイ怨ミ

ガアリマス此ノ不合理ナ點ヲ速クニ除去シ本制

トシテ之ヲ發布シ現今就職シテ居ル保姆ヲシテ

在職年數ニ對シテハ幼稚園令施行以前ニサカノ

ボリ直チニ此ノ恩典ニ浴セシメ幼稚園教育發展

上遺憾ナキ様希望スル次第デアリマス。

第三幼稚園令施行規則第十六條但書ヲ左ノ通り改

メラレ度キ事

「但月俸額ニ付イテハ園長及保母ハ本科正教員

ニ準ス」

幼稚園令施行規則第十六條中「但月俸額ニ付テ

ハ園長ハ本科正教員ニ保母ハ専科正教員ニ準

ス」トアリマスガ保母専科正教員ト其ノ列ヲ等

シクシテ居ルコトハ保母ヲ本科正教員ヨリモ低

給ナモノト認メルノ誤解ヲ招ク嫌ヒガアリマシ

テ甚ダ遺憾ト思ヒマス。保母ノ仕事ト致シマシ

テハ今更申上ゲルマデモアリマセンガ園兒教育

ノ任重且大デ其ノ行フ處ハ決シテ専科的ナモノ

デハアリマセン。又待遇如何ニ依ツテハ保母ノ

優良ナル者ヲ集ムル點カラシテ甚ダ不利ナ立場

ニアリマン。次ニ幼稚園令施行規則第十一條ニ

規定サレテ居マス様ニ其ノ資格ハ専科的ノモノ

デハナク明ラカニ小學校正科正教員ト同等以上

ノ内容ヲ有シテ居マス。又之ヲ大都市幼稚園ニ

於ケル保母資格ノ實情カラ見マシテモ文部省教

員免許狀ヲ有スル者小學校正教員ノ資格ヲ有ス

ル者ガ漸次増加シテ居マス。是等ノ事情カラ考

ヘマシテモ少クトモ保母ノ待遇ヲ本科正教員ト

同様ニ取扱ハレタイト思ヒマス。

以上ノ三項目ハ幼兒教育ニ携ハル者ノ均シク要望

スル所デアリマスカラ重ネテ本案ヲ提出シタ次第

デアリマス御賛同ヲ希望シマス。

一、遊戯交換

1、ボートレース 大阪市保育會

2、交通遊 神戸市保育會

1、時計 吉備保育會

2、木の葉の驅けくら 名古屋保育會

1、軍艦行進遊戯 名古屋保育會

2、燕のち 影ふみ 京都市保育會

1、かなりや 3、大典のよろこび 鳩

一、閉會ノ辭

以 上

京都市保育會

午 後

一、御所拜觀

都踊觀覽



定規文注

告

稟

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
 - 一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。
 - 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新聞書、交換雜誌、入會手續、更に
 - 本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。
- 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内**
- ## 日本幼稚園協會
- 一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい。居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。
 - 一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵券代用の場合は總て一割増）
 - 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 - 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 - 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に『前金切』の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 - 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

告 廣

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓
 一等面一頁 金拾五圓 一頁以下御斷
 神田區南甲賀町八品田與松に御申込下さい。

發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

製 復 許 不
載 轉 禁

編輯兼發行所 堀 七 藏
 東京府豊多摩郡戸塚町大字戸塚五七五
 印刷者 猪 木 卓 二
 東京市麹町區飯田町二丁目五十番地
 印刷所 京華社印刷所

價 定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ月分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和三年十二月十二日印刷
 昭和三年十二月十五日發行

幼兒的教育 第二十八卷第十二號

東京高等師範學校教授

文學博士

梶崎淺太郎先生著

菊判洋裝全一冊
定價二圓卅錢 送料金十八錢

學校選擇
職業指導

兒童素質検査法

入學試験廢止
に伴ふ兒童素
質検査の方法
とその標準!!

小學校卒業生の將來進むべき學校選擇と從事すべき職業の選擇を誤らんか、其損失は希らく終生性的の物である。吾等は學校の試験制度や卒業生の就職率や其他職業的缺陷を論議する以前に最も根本が問題として、兒童の一般的素質並に特殊の素質即ち職業的素質等を合理方法の下に検査して、最も適材を最も適所に進め得しめ個性の發能を充分に發展せしめてこそ個人並社會の幸福理想に到達すべき筈である。本書は梶崎博士の著一般素質検査法の試行の中より兒童の學校選擇職業指導を爲す標準となるべき唯一の指針である。

東京高等師範學校
文學博士

梶崎淺太郎
先生新著

三版 心理學概論 第一卷

菊一全判菊
訂裝アリ
錢八十圓二價
錢八十圓金料送

本書は現代心理學の諸傾向に筆を起し次に心理學序論に入り更に人間性概論に到り最後に人間性各論に於て先生日常の蘊蓄を傾注せらるゝその組織的體系は言はずも哉、構想の偉大、立論の正鵠の更に嚴正の批判、独自の研究等斯學の研究者は勿論教育家一般識者は本書に依つて開發せられ、指導せられ研究の前途を摘示せらるゝ事必然である。

東京高等師範學校教授
文學博士

梶崎淺太郎著

四兒童精神力的學研究
版
送定價
料四圓五拾錢
貳拾七錢

一般検査法の試み
送定價
料貳拾七錢

文學博士
梶崎淺太郎著
送定價
料四圓五拾錢
貳拾七錢

三選拔法概論
送定價
料四圓五拾錢
貳拾七錢

新教育的統計法概要
送定價
料四圓五拾錢
貳拾七錢

文學士
朝日直樹著

新行動主義心理學

紙數四百五十四
送定價
料十八錢

本書は内省心理を從來感覺より始むべきを反映反當なる解釋を爲す。

發行所 東京市牛車水區中野區文館書店 電話 東京市牛車水區 電話 東京市牛車水區

移轉御通知

謹啓 寒さ彌増し候處貴園愈々御隆昌の御事と奉慶賀候。
陳ば、弊館儀久しく工場内に蟄居仕り、地僻り家穢なく御得意
各位に御不便相掛け居り候處、今回新設され候當館に事務所
を移し、商品も陳列罷在り候間御通り掛りの節は是非御立寄
り下され度御案内申上候 敬具

追而、電車は「神保町」又は「九段下」にて御下車下され度候

神田區一ツ橋通町廿一番地

帝國教育會館内

株式會社
フレール館

昭和三年十二月一日

電話九段區、三三三、三三六
振替東京一九六四〇